

# 第10回 被災地（復興地）に学ぶ会

「被災地という場をお借りして

人としての生き方を学ぶ会」

## 活動報告



給分浜にて埼玉チームと

石巻市 金華山・給分浜（牡鹿半島）

2012.3.23－2.26

## 【第10回 被災地に学ぶ会 行程表】

(ルート) 名神→新名神→東名→伊勢湾岸→東名→首都高速→東北道→仙台南部道路→仙台東部道路→三陸道

3月23日(金)	18:30	JR尼崎駅 南側バスロータリー 受付					
	19:00	バス出発					
	20:30	土山SAにて休憩・1名合流					
24日(土)	6:30	石巻港IC(高速道路)から一般道へ					
	7:00	門脇小学校前を通過					
	8:30	牡鹿ボランティアセンター(鮎川浜) 到着					
		鮎川浜より船出発→ 第1便(8:30発)東京42名 第2便(9:00発)大阪44名					
	9:00	第2便で出発					
	10:00	作業開始→東京チームと合同					
	17:00	作業終了 → 宿泊施設へ → 夕食					
	18:00	(東京・大阪)合同体験発表会					
	23:00	消灯					
25日(日)	?	各自起床→お掃除					
	6:30	ラジオ体操					
	8:00	金華山を出発→牡鹿VCへ					
	10:30	給分浜にて埼玉チームと合流、活動					
	13:00	活動終了					
	13:30	牡鹿仮設商店街散策					
	16:30	大川小学校到着→ご冥福をお祈りする					
	17:00	道の駅(上品の湯)入浴+夕食=2時間					
	19:00	バス出発(帰路)					
26日(日)	8:00	JR尼崎到着 解散					
	参加者数	44		教師	21	10代	5
	女性	12		一般	6	20代	22
	男性	32		学生	17	30代	6
						40代	7
						50代	2
						60代	1
						70代	1

第十回「被災地に学ぶ会」体験記

★★奈良県20代 男性★★

今回活動をさせていただいた金華山は野生の鹿が住む風光明媚な国定公園で、年間五十万人の人が訪れる人々の大切な祈りの地だったようです。先月に続き、今月も写真記録の係を任せていただきました。ありがとうございます。

【星空や大樹の風景を子供たちに】

荷物は増えますが三脚を背負って行き、宿泊と行うことでかねてより考えていた星空を捉えるということを実行に移しました。月が新月に近かったということもあり、普段は見られないほど多くの星を見ることが出来ました。私も一晩で五つ六つの流れ星を見たいでしょうか。先生方にはぜひ生徒の皆さんに津波の被害や活動内容のほかに、この景観をシェアしていた



だきたいと思っております。それが復興を願う思いの喚起につながれると思うのです。

【新たな道をつくる】

先月の体験記にて、止まっていた時計を未来へと進める活動であった、と記しましたが、今回も活動をされる皆さんを見て新たなものを感じました。すなわち、新たな道をつくりだしていく、皆さんの姿です。



津波被害で奥の院までの道は滑りやすく非常に歩きづらいものになっていました。重機を入れることも出来ず、なかなか砂だしの作業など進まないという状態。そこで現地の方と協力して今回の橋・足場作り、土嚢をリレーで運ぶ姿。それは道が無くなってしまったところに新たな道を作る活動であり、中学生、高校生から70代の方まで、老若男女が皆で力を合わせる光景は私の目には大変眩しく映りました。

【日常の当たり前を続けることの凄さ】

神社で宿泊させていただき、翌朝は午前五時に

起き、一人朝日を撮りに行きました。その際にさすがはアスリート、八尾さん、菅沼さんに遭遇。日々実践されている朝のランニングをされているところでした。また、撮影から神社に戻ってみると、みなさんがトイレ掃除、境内の掃き掃除をされていました。誰かが召集をかけるというわけでもなく、です。これにはびっくりしました。

いつもとは違う状況、たとえば石巻に行ったからいつても少し頑張ってみる、ということは誰にでも出来ることでしょう。しかしいつも通りの動作をいつもとは違う環境下で当たり前のようにすること、それは大変に難しいことで、そういった部分にこそ本気、本物というものが宿ると思います。実践する皆さんの姿から今回も学ばせていただきました。

次回より被災地に学ぶ会が「復興地に学ぶ会」になるとのことで、今後の新たな展開を楽しみにすると共に、また少しでもお役立ち出来ればと思っております。ありがとうございます。

★★大阪府20代 男性★★

「被災地に学ぶ」から「復興地に学ぶ」へ、千種さんが言われた言葉の重さ大切に気づかせて頂きました。被災地は大阪と宮城どつちなんだろう。石巻市は復興しようと日々生活してお

られ、大阪にいとそんなことも忘れてしまいません。心の被災地は震災で被災された東日本だけでなく、その周りの都道府県なのかもしれません。だからこそ、心をよせていく大切さに気づけます。そんな被災された東日本は被災地ではなく復興地です。それは、被災した町や人が復興していこうとするパワーであり、周りの都道府県の人々がその姿勢に学ばせて頂くことに繋がります。日本の仲間、心をよせ痛みを分かち合い、忘れることないよう伝え合い、日本人として支え合う大切さに気づかせて頂きました。「復興地に学ぶ」姿勢で今後、継続させ取り組ませて頂きたいです。

今回の私の目標と役割として、両手での作業・東京の方とコミュニケーションや体験談発表がありました。しかしながら結局今回も、「している」つもりが実は「させて頂いている」、そう感じさせて頂くことばかりでした。

作業では、土嚢を作るものと重機が入れる道を作るものでした。力仕事メインでしたが、丁寧に両手で渡していくことを大切に組みました。そうしていると、気づかれた方が「土嚢袋の口をしたに向けて置くと綺麗しほげにくくなるよ。」と声かけしてくださいました。また、作業が進んで行く中これも自然と声かけがありバケツリレーのように土嚢を運ぶ一体感がうまれました。一人ひとりが声かけをし、両手で渡して

いくことで「ただの土嚢袋が気持ちの入った土嚢」というのか道の下地になりました。」と、最後に土嚢を受け取り並べていかれたトライアスロン監督の八尾さんが言っておられました。最後までみんなの気持ちが途切れず丁寧に行えたことで、人がみても安全に作業を終えられました。また、作業を終えて土嚢袋を拝見すると綺麗に道の一部ができていたことに感動し、中学生や高校生・大学生の若いパワーや目を輝かせながらの姿を拝見し力を頂きました。

東京と大阪のコミュニケーションを深める取り組みでは、はじめに大人も子どもも関係なく心に戻り触れ合う時間で場が温かくなりました。大人が本気で取り組む姿勢を見せることで子どもたちの取り組む姿勢ももちろん本気になっていきました。大人の背中を見て子どもは成長していくことを学ばせていただきました。

次に現地リーダーとして指示してくださいました渡辺さんにご講話頂き、震災当初から今までの約一年のボランティア活動について想いを話して頂きました。「私はここに(牡鹿)修学旅行気分できたのではないですから。」という言葉を頂きました。その裏にはたくさん現実を見てこられた深い想いがあること、被災された方がいることに心をよせて置き続ける大切さ風化させない想いがありました。自分は大阪にいながら被災され

たことを忘れてしまう心の弱さがあります。だからこそ、こうしたお話を聴かせて頂く中で自分を振り返らせてもらえることに感謝します。

千種さん阿部さんから「日本を美しくする会」についてご講演頂きました。そのご講演を聴かせて頂いたことだけでなく、翌朝早くからお掃除される方の多さに驚きました。普段の生活がこうした場でできるところまで当たり前になっていることに気づかせて頂きました。と同時に、即行動されている同世代の方の姿を見せて頂き自分の甘さを知ることができました。朝から学びを多くいただける志高い方々に感謝と感動を頂きました。自分の普段の生活を見つめ直し粛々と取り組ませて頂きたいです。ありがとうございました。最後にになりましたが、運転手さん始め、今回一緒にさせて頂いた方々とのご縁に感謝していただきます。バス代だけでなく、私たちが作業させて頂ける地盤を築いてくださった日本を美しくする会の方々にあつく御礼申し上げます。ありがとうございました。

★★兵庫県20代 男性★★

第十回被災地に学ぶ会に参加させて頂きました。この度も大変有り難い経験をさせて頂きまは感謝の気持ちでいっぱいです。全て用意された

上で、バスの運転手の方々にも、また現地のボランティアセンターの皆様にも、多くのご迷惑をおかけしながら、作業をさせて頂いたことに、本当に感謝の言葉は言い尽くせません。

今回の被災地に学ぶ会への参加には、実は躊躇いを感じておりました。回を重ねる度に、「自分がこのバスの一席分を頂いていて本当にいいのか」という思いが強くなっていたからです。毎回、至らない自分に気付かされるわけです。今思えば、そうして申し訳なさを口にする事も、言い訳のよくな気がして参りましたが、本当に、逃げ出したくなるほどに、自分の感謝の足りなさ等に気付かされるのです。ただ、感謝が足りていなかったという事実は、自分にとってはショックであり、恥ずかしいことであるかも知れませんが、それに気が付ける事自体は幸せなことに他なりません。それならば、気付くべき感謝がまだまだ自分にあるのなら、逃げ出したくなる気持ちに負けずに、もちろん、当たり前に参加させて頂くわけにはいきませんが、叶うのであれば、参加させて頂こうと心を決めたのでした。

そういった心の迷いに光を頂くような経験が今回ありました。毎回感じているのですが、一人ひとりの力は本当に無力です。ですが、想いを同じとする人達が集まる事によって、一人ではできないことが可能になります。毎回、そういった協

力をし合うわけですが、今回も例に漏れず、皆さんで列を作って土嚢をバケツリレーするという協力がありました。その時に、ぼんやりと考えていた事がありました。軽くはない土嚢を隣の人から受け取り、隣の人へ気渡す時に、「心を繋いでいつている」という気持ちでしたのです。隣の人のことを思うと、早く手を差し出し、力を込めて重みを預かり、また渡す時にも、相手に渡るまで力を緩めない、そういったことを気遣います。更には、自分の手から離れたとしても、その行方から心を離さずに、渡した相手の顔を見たり、なるべく心を途切れさせないように努めました。すると、本当に心が繋がって遠くに届いていったような気がしたのです。

ここでふたつの事に気が付きました。被災地の作業には、今回もありましたが、瓦礫撤去の作業等があります。大谷先生をはじめ、多くの先生がそれを大切にされている姿勢を見せて下さるので、私達学ぶ会の参加メンバーは皆、「瓦礫は瓦礫ではない。そこで生活されていた方の想いがかもっているもの」として、瓦礫を丁寧に扱う事を心掛けてきました。その丁寧に扱うといった対象に、例えば先にも上げた土嚢のような、生活とは関係のないように思われるものも含まれるのだろうかといった疑問を持ったことがあります。ですが、今回で気が付きましたが、それもやはり丁

寧に扱いたいと私は思いました。なぜなら、丁寧に扱うということは、その土嚢等を地面等に最後に置く時に、なるべく最後まで力を抜かず、また手が離れてからも心を離さず見届けるといったようなことであるので、上述したリレーと同じ事があてはまると考えたのです。つまり、丁寧に心掛ける事で、心が繋がっていくと思うのです。私達は多くの時間作業ができるわけではありません。与えられた作業を完遂できずに、無念さを抱えながら帰る事も多くあります。ですが、そうやって残していった作業も、別の団体が引き受けて続きを行ってくれています。そもそも、被災地の復興が自分達の力だけで叶う筈がありません。同じ時間に居合わせずとも、想いを繋ぎ合って作業する多くの人々の力があつてこそ、復興の道が切り開かれていきます。そういった意味でも、やはりどんな作業にも、「心を繋いでいく」といった意識は大切であると今回気が付いたのです。

もうひとつ気が付いた事として、「心を繋いでいく」ということは、その途中で誰が欠けてもその繋がりは広がっていくかないという事実です。自分の非力さ無力さを感じたとしても、その列に加わって、心を繋げている事実において、能力や資格は関係ありません。必要なのは心です。ですから、私も自分の非力さ無力さを恨み、未熟さを恥じる事がたくさんありますが、その列に加わっ

ていく事を決して止めずに続けていきたいと思  
います。

今回の被災地に学ぶ会では、東京の日本を美  
くする会の皆様との交流会がありました。その代  
表をされている千種さんの「この世の中を救うと  
言う事は考えていないが、この世の中の一助であ  
っていたい」というお言葉が心に残っています。  
自分は非力で無力で未熟です。大きな力を及ぼす  
事はできません。それでも、自分も一助になっ  
ていたい。祈るように、心を繋ぐその列の中に加わ  
っていたい。被災地から自宅に帰って来たとして  
も、体は被災地から離れようとも、心は離さず  
に。ありがとうございます。

★★奈良県20代 男性★★

学ばせていただけることが大変幸せに感じ  
ながら今回も参加させていただきました。今回もた  
くさんの方々に支えられ、自分が学べる場をすべ  
て用意してもらった形で。そのことが自分の中  
で「あたりまえ」でなく「感謝」の気持ちを常に持  
つことで少しでも「復興地」の方に、自分の回  
りにいる方に、心を寄せる事ができるのではない  
かと思えます。

今回まず申し訳なく悔しかったことは自分の  
体調管理ができず、ひとつの大きな学びである

なさんの話を正面から聞けなかったことです。自  
分の不甲斐なさに本当に申し訳なく悔しかった  
です。石巻に入り通っていたいている門脇地区  
の様子は、いつ見てもほとんど変わっていない姿  
に「復興してきている」という言葉にいつも疑問  
を抱いてしまいます。私が初めて訪れたときに見  
たのが門脇地区の様子で、いつまでも忘れられな  
い光景だと思えます。今回は金華山に行くとい  
うことで牡鹿ボランティアセンターの方にもい  
つにも勝る準備をしていたいただき、そのお陰で船の関  
係や宿泊の関係も本当に感謝申し上げます。す  
ごくきれいな海や山、そこから見える素晴らしい景  
色が広がる場で活動させていただきました幸せに感  
じました。

学びばかりの中で、ここでは中でも私が強く心  
を打たれたことについて考えたいと思います。ひ  
とつは一緒にさせていただいたみなさんの「姿勢」  
です。活動に対する姿勢はもちろん、その中  
でも二日目の早朝に清掃活動やトイレ掃除に取り組  
まれている方の姿勢に素晴らしいものを感じま  
した。そのトイレ掃除に取り組む姿勢に感激しま  
した。ただ私自身その光景を目の当たりにし一度  
その場から逃げてしまったのが、後で思うと、自  
分の弱さが表れていて悔しく思いました。その後  
もう一度トイレに戻り、ある先生が「先生もしま  
すか」と優しく声をかけていただき、させていた

だくことができました。させていたただく中で、自  
分の「ここ」が本当にきれいになっていくの  
を感じました。何か優しくなれたというか、すつき  
りしたというか、言葉で表すのは難しいですが  
初めて感じた感覚でした。以前と同じように、ま  
た先生方の「背中」から大きな学びをいただきま  
した。「背中から学ぶ」ということは学校現場で  
も同じことではないのかなと思います。言葉で伝  
えたり面と向かって見せたりするのもいいこと  
だと思ふけど、「背中」をもって子どもたちを育  
んでいくことはとてもすごい事になるのではな  
いかと感じました。言葉などで教えてもらうの  
とは違い、「背中」を見て学ぶということは、見て  
気づかないといけません。それと同じことができ  
れば、子どもたち自身が自ら気づくことができる  
ようになったということにつながると思うので、  
少しでもそうならば、いろいろな場面で生かさ  
れていくのではないかと感じます。本当にこの会に  
参加させていただく中で「背中」をもってたくさ  
んの気づきをいただき学ばせていただいています。  
私自身も言葉よりも背中を見るようになった  
のかも知れません。

もうひとつは被災者の一人で牡鹿の仮設商店  
街で店を出しておられる方のことです。十一月に  
仮設商店街がオープンし、学ぶ会で石巻の方に行  
かせていただき、その度に商店街に寄らせてもら

えています。そこでその商店街で出会った新鮮な海産物やその加工品のお店を出しておられる店主と家族の方とよくお話をするようになりまし。震災当時の様子をそのまま聞かせていただいたり、家族のことや今の暮らし、またこれからの生活についてなど、本音でお話してくれたように感じます。そこで私自身つながりができたように思いました。今回連絡をとっていたことはありましたが、日曜日でお店が休みにも関わらず私たちが商店街に立ち寄るといふことで、わざわざ会いに来てくださいました。とてもうれしく思いましたし、感謝の気持ちでいっぱいになりました。さらに新鮮なわかめをいただき、丁寧に食べ方や調理法も教えていただきました。その方の心遣いに本当に感動いたしました。

大川小学校でご冥福をお祈りさせていただいた後、道の駅で食事とお風呂に入りました。そのとき商店街の店主の方がまた道の駅まで来てくれました。それは昼間にいただいたワカメだとみなさんの分までということ、わかめをわざわざ届けに来てくれたということでした。その心遣いには、なんて言葉をかけていいのかわからなかったのですが、本当に「ありがとうございます」という感謝の言葉しか言えませんでした。勝手に石巻に自分の居場所ができたかのように感じています。行かせて

いただくと本当に温かく迎えてもらい、おいしいものをいただき、心も体も温かくなって帰ってきます。私たちが少しでも心を寄せて笑顔になってもらえるように行っているのにもかかわらず、逆に私たちが被災者の方々から大きなパワーをいただいているんです。本当に感謝するしかできないです。

震災から一年が過ぎ、しかしまだ復興といえるものではありません。心を少しでも寄せて、自分のできることを継続し、また行くことができた者として「伝える」ということを責任持って実行していきたいと思えます。身の周りの全ての方々に支えられていることを忘れず、日本を美しくする会の皆様をはじめ神姫バスの方、一緒にさせていただいた東京チームの皆様、私たちの活動に携わっていたいただいた方々に心より感謝申し上げます。

★★兵庫県20代 男性★★

私自身二回目の被災地に学ぶ会に、今回参加させていただきました。皆さんの前で童心行をさせていたいただいたこともあり、非常にたくさん学びを頂きました。童心行では、人々に楽しんでいただけよかったです。しかし、私の準備不足や説明下手でいろんな方に迷惑をかけてしまったかもしれません。次へ活かせるようにしたいと思

ます。

そして私は、自分から他者のために動こう、とする方々が非常に多く、しかもそのスピードが早いの、改めて驚きました。運転手さんにコーヒーを買って、感謝の気持ちを表す方。会計を進んで引き受ける方。他者をはげまそうと、呼びかける方。土嚢を他者に渡す時、渡しやすいように持ち、気持ちよく「お願いします。」と他者を大切にしている方。どなたも全て、素晴らしい方でした。私もそれを見習いたい、と自然と動きまわりました。多くの方に、私に足りない生き方モデルを見せいただき、非常に学ぶものが大きかったです。

また、「凡事徹底」の精神を教えて下さったのも大きな学びでした。一事が万事。トイレ掃除一つに生き方が現れます。私も朝、トイレ掃除をさせていただきましたが、とてもじゃないですが丁寧とは言い切れませんでした。丁寧に続けてやります。その難しさを教えて頂きました。大切なことは日常に生かすこと。日常こそが学び、挑戦の場として、行動を変えていきたいと思えました。「だれでもできることを、だれにでもできないくらいやる」この言葉は、非常に印象に残っており、私の宝です。

さらに、いつも教えて頂いています、私たちは「させて頂いているだけ」だな、と思えました。「している」なんて思いあがってはいけません。運

転手さんは、私たちがよだれを垂らして寝ている間、必死で運転をして下さっていました。私は、パンも弁当も注文して頂いていました。私は、バスも取り計らわず、乗っかっていただけでした。

私は、泊まる場所も与えて頂き、船も運転して頂き、仕事もさせて頂きました。となると、私が一人でしたことなんてほとんどありません。全てさせて頂いていること。全て、して下さっていること。それを忘れてはいけなさと、改めて思いました。同じように、この世の中で、私自身一人できていることなんてありません。食べ物は農家の方に作っていた頂き、お店の方が管理して下さったものを売っていただいています。子どもがいるから教師をさせて頂けています。電車は運転手さんが運転して下さり、整備士の方が安全のために点検して下さいます。家は家主の方が建築を依頼され、建築会社の方が作られたものです。日々、そのような感謝を忘れないでいきたいと思っていました。

最後に、私にこのような学びを頂く機会を下さった大谷先生に本当に感謝です。さらに、一緒に学ばせて頂いた同志の方々にも感謝です。大切なことは、「見えないところに目を向け、思いを馳せて感謝すること」、「丁寧にやり続けること」、「自分から人のために動くこと」であると感じました。自分を磨き、成長できるよう、日々の生活

の中で行動し続けたいと思いました。ありがとうございました。

★★奈良県10代 男性★★

東北の被災された方々に僕ができることはなんなのか、そんなことを考えて今回の会に参加させていただきました。一度行っただけで何もかもわかるというわけでは決まてないのですが、これからの自分の行動へのヒントをたくさんいただくことができました。

現地にいけば被災された方の気持ちが少しはわかると思っていたのですが、結果的にはほとんどわからなかったというのが正直な感想です。一年が過ぎて、崩壊された家などもほとんどが片付けられていました。住宅街があつたところは空き地のようになっていて、そこに家が建ち、人が生活していたというのは、僕にとつては正直想像しがたかったです。

二日目に、もともと住宅街があつた場所に落ちているもの、埋まっているものを拾うという作業をさせていただきました。貝殻や石がさんらんする中に、人間の生活を感じさせるものがたくさん落ちてありました。泥をかぶったCDが落ちていました。持ち上げた瞬間、割れていたそれはケースもろともぼろぼろに崩れました。歌謡曲のCD

でした。持っていた袋にいれることがなかなかできませんでした。

石巻は夜空がとてもきれいで、海はずっとキラキラしていました。奈良県に住んでいる僕にとっては、余計に魅力的な海でした。海産物が驚くほど美味しいところで、仮設商店街では美味しい昆布などをいただきました。でもやっぱり、その海が人を飲み込んだというのは想像できなかったです。

作業が全て終わった後、大川小学校に寄らせていただきました。僕には子どもがいないので、子どもの命を無慈悲にも奪われた親の気持ちは、本当のところわからないのかもしれませんが、以前僕が通っていた小学校の前を通るとき、いつも子供たちの明るい声が聞こえてきます。大川小学校の前に立ったとき、そんな声が聞こえてきそうで、すぐにバスに戻りたくまりました。お線香をあげさせていただきましたが、こんな余所者が冥福を祈らせてもらうのは、躊躇われてしまいました。なぜかはよくわかりません。

渡辺さんのお話はとても勉強になりました。仕事をやめて一年間現地で活動されていて、収入はゼロだそうです。報道の事実は歪められている。皆で協力して、なんて言っているのも最初の二週間で、あとは奪い合いになる。義援金も物資も



衝撃的でした。こうも言っておられました。今できる支援は、(経済効果) 現地に来てお金を落とすしていくこと。色んなものを買って帰ること。地元でも、少しでも宮城県産のものを買うこと。

帰って来てから大阪産業大学での報告会にも参加させていただきました。僕はもともと考えるよりも動くタイプだと自分では思っているのですが、(今回も何か動きたいという思いで参加させていただきました)今回参加させていただく中で、被災地に行くことに少し迷いがでてしまいました。ボランティアなんて、ただの思い上がりで(僕はそうは思わないのですが、現地の方にはそう思われているのではないか)、行っても邪魔になるだけではないのか、微力な自分が邪魔するぐらいなら行かない方がいいんじゃないか、本当に被災地の方のためになっているのか、何ができるのか。報告会の中で金先生がこうおっしゃっていました。考えてから動くのではなく、動いてから考える。自分の背中を押された気がしました。終了後、お話をさせていただき、上のような思いをお伝えしました。

「僕は一つだけ決めていることがあるんです。怒られたらやめる。」

僕が一番欲しかった言葉でした。頭で考えているうちは、わかることもわからないのだと。当たり前のことなのですが、先生のお陰で、ある意味確

信に変わりました。

浅野さんのお話も聞かせていただきました。今の自分が最も聞きたかったお話でした。現地のリアルな様子。もつと色んな方のお話が聞きたいとも思いました。次回、現地に行かさせていたいただときは可能な限り現地の方のお話が聞きたいと強く思いました。こういうことが「被災地の方々に思いを寄せる」ということなのかもしれない。せん。

今回はたくさんの方のご尽力、経済的なサポートに頼り過ぎてしまいました。これが、一番の反省点です。一度、できるだけ自力で行ってみるごとの必要性を感じました。

最後に、お忙しい中、企画、打ち合わせなどさまざまなことに時間を費やしてくださった大谷先生、バスの費用などさまざまなサポートをしてくださった日本を美しくする会の皆さん、本当にありがとうございました。

#### ★★大阪府40代 男性★★

被災地という現場を一度、目にしたい。何か被災者の方々のお手伝いをしたいの思いは、多くの方が持つておられる思いだと思います。私もそうです。様々な団体があり、様々な活動を行っています。でも果たして、それがお仕着せの活動

になっているのでは、ないかという危惧を多くの方も持ちだと思えます。「何かをしてあげる」ではなく、「被災地に学ぶ」とはつきり書かれてあるこの学びの会に参加させていただきたいと、私は、強く思いました。紹介者もおらず、見ず知らずの人間である私を、メール一通で、信頼していただき、参加させていただいたことに感謝しています。また、様々な方々のお力添えにより、行かせていただいていたことを知り感謝しています。

バスの中での移動。参加者の方々は、様々な方々がいらつしやいました。見ず知らずの方々ばかりでの、自己紹介。みなさん、東北への思いと、同時に、気づきということをおっしゃいました。バスの運転手さん、この会を応援し支えてくださる方。東北の被災者の方々。その、いろいろな方々の「お心に気づくこと」

人は、いろいろなことに気づいているつもりです。でも自分の知っている「気づき」というのは、狭い範囲でしかありません。人の姿をよく見ることに感ずること。話すこと。多くの人の「気づき」を共有することで、より多くの「気づき」を一個人として持つことができます。

東北の被災地と呼ばれる所に着き、一日の活動を終えました。その翌朝。早起きをしたつもりで、外へでました。すると、何人かの方々が、箒をも

って階段や道を掃いていらっしやいます。トイレに行くとき、もうすでにトイレ掃除をされていらっしやいます。私は、驚き、その姿から学びました。私も箒をもって掃きはじめました。誰にも言われるではなく、強制されているわけでもなく。その輪は広がっていきました。人は、人の姿を見て、感じるものです。言葉が先行して考える時代。机上の理論で物事が進む時代です。でも人を動かすのは、言葉ではなく行動するその姿だと教えられました。

「大川小学校」、メディアでよく報道されていた、多くの子どもたちが、津波で流されてしまった学校です。私もその悲劇を知っていました。その悲しみの地へ、被災地に学ぶ会で、連れて行っていただきました。朝早く、次の活動の地へ移動する、バスの中で隣席に座っていたいただいた方から、大川小学校との関わりを伺いました。熱い物が胸に込み上げてきました。活動が終わり、いよいよ大川小学校でのご冥福を祈らせていただく時間です。バスの中で、お話を伺い、深い思いを感じることができ、すすり泣く声が聞こえてきました。大川小学校の前では、多くの方々が、深い沈黙の中で祈っていらっしやいます。

震災という、その悲劇の中で、人は何ができるのでしょうか。深い沈黙の中で、祈られた方々は、きつと津波で流されてしまった子どもたちの姿

と思いや、また、そのご両親の深い思いについて、幾許かは、感じる事ができたのではないのでしょうか。

私たちには、過去の悲劇を消し去ることは、できません。ただ、未来に向かって、悲劇の思いを胸に明日の復興へと向かわせていただくことだけだということを学ばせていただきました。この学びの場をいただいたことを、皆さまに感謝いたしております。ありがとうございます。

#### ★★奈良県20代 女性★★

今回の学ぶ会に参加させていただけたこと、このような企画を継続して続けて下さっている大谷先生、大きなサポートして下さい下さっている日本を美しくする会の方々にとっても感謝しています。

前回、自分は参加できるような日々を送っていないと感じていることを行きのバスの中で話しました。ちっぽけな一言を大谷先生が「そんなことはないですよ、次回は沢山の先輩方が来られ、いいお話が聴けるから、ぜひ…」というように返してくださり、今回の参加をお願いしました。正直なことを言うと、前日まで迷っていたことも事実です。けれど、今、やっぱり参加させて頂けて良かったなあと感じています。そう思えたのはやはり、バスの運転手さんの表情や参加されたみな

さんの姿、言葉、そして地元の方々との出会いがあったからでした。

一日目、金華山に着き現地スタッフの方のお話を聴きました。するどい目を感じました。それはやはり自分の全てをここに置き、一年間、活動され続けるからこそ見えることがあるのだと思いました。夜のお話の中でも「その瓦礫取って…」とありもしない瓦礫を取ってくれという地元の方の言葉や、車に乗っていて、ぶつかってもいいのにつかつたと警察を呼ばれる方がいらっしやると伺いました。浅野さんの「あの日がすぐ後ろについてくる」という言葉と同じなのだと思います。中途半端な気持ちではしてはいけないし、したくないと感じました。いつもバスの中で聴かせて頂く「おめでたい集団」ではないのだから、夜、自分達が盛り上がることもスタッフの方はどう感じていらっしやるのか気になって仕方がありませんでした。でも、帰る間際お礼を伝えるに行き、聴きたいことがありながら質問できなかったのだということをお話の時とは違い、とても柔らかく感じました。そのとき浮かんできたことは、阿部さんのお話に出てきた鍵山先生の姿でした。その思いを継いで活動されている方々の姿がスタッフの方に伝わったのではないのかなあと感じました。何でも

考えて不安を作り踏み出せない私とは違い、「ゼロからイチ」を実行される方が沢山いらっしやるからこそその結果ではないだろうかと感じました。クラスの子たちにも「みんなにとつても、自分にとつてもいいと思うことはどんなでしょう。」と伝えるのにきつと自分が一番できてなかったのだと反省をしました。

グループミーティングでも参加できてよかったと強く感じました。特に高一の女の子の涙ながらのお話に心をうたれました。こんなふうに自分に引き寄せて考えられる彼女のふるえる言葉を聴きながら、ふと、新年度出会う子たちもこんなふうを感じようとする子がきつといるんだろかなあと思いました。そして、その子たちの素晴らしいところに気づき引き出せる自分になりたいと感じた時間でした。このミーティングで彼女の思いを知らなければただの高一の女の子としか見られていなかったと思います。でも、聴かせていただけてことで他者に心を寄せられる子で、それをこの場でひらくことができる素晴らしい気持ちの持ち主で、この場を繋いでくれた方に（先生に）「ありがとう」を伝えられる素晴らしい子でした。そう思うと、ここに来られている全体的の方もきつと、私が見えていない素敵なお姿があるのだろうと思いました。

私が一日目にさせていただけたことは、石を運

ぶことと川のお掃除でした。足もとの悪い中、大きな石を運ぶみなさんの背中はずごく、大きく力強く感じました。その中に自分も混ぜてもらえていたことを改めて有り難く感じました。自分のできることは本当に少ししかないのですが、このチームの一員であることが大きなパワーになり、運ぶ石が重くても、腕が痛くても全く苦痛を感じませんでした。これがきつと、浅野さんの仰る「こころ」なのじゃないかなと感じました。一年がたち、報道も減り、復興に向けて進んでいるかのように見える中、消えない傷と向き合わなくてはならなくなったとき、このチームで私を感じさせてもらった「こころ」が必要になるのじゃないのかなあと感じました。どんなに辛くても、そのことをわかってくれる人が一人でもいれば、繋がってくれる人が一人でもいれば、そして一緒に動こう

としてくれるなかがあれば…それが浅野さんのおつしやる、今、必要な「こころ」なんじゃないかなと感じました。そう思うと、こうやって継続してバスを出して下さる「日本を美しくする会」の方々に本当に感謝でいっぱいになりました。川のお掃除をした時もそれを強く感じました。川のお掃除でさえ手が回らないほどの一年だったのだと思うと人手の足りなさを感じました。不謹慎かもしれませんが、そういう場を担当させていただけたことが、すごく嬉しかったです。私でもプ

ラスいちちになれると感じさせてもらったことに、感謝しました。お掃除後、住職さんが「トラック一台分だね。」と仰い、その言葉にハッとしました。ただひたすらもくもくと丁寧にしたいという思いで目の前のことしか見ていませんでした。それだけの量のものであったなんて…。でも、よかったあ、少しでも綺麗になつて…。

二日目は午後からのお天気のこともあり、朝、金華山を登つことになりました。こうやって少しだけ来て自分たちの都合で帰っていくけれど、スタッフの方や住職さん方はそうじゃないんだよなあと思いながら船に乗りました。行きとは違い、小さな船でした。だからこそ波の大きさを感ぜました。ものすごく波を大きく感じ、あの日どれだけ恐ろしかったのだろうかと初めて海を怖く感じました。

船着き場に着き、わかめを囲んでお仕事をされている方々の輪がありました。その輪の近くで犬の散歩をされていたおじちゃんに「どこからきたの」と声をかけられましたがおじちゃんに「どこからきたの」と声をかけられましたがバスのお迎えも気になり、ゆつくり話せませんでした。人の繋がりが支えになるのだと体験を書きながら強く感じている今、一人で散歩されていたそのおじさんともう少し話すことができなかつたのかと後悔しています。

二日目の活動の場所は初日に寄って頂いたコ

ンビニの近くだと聴きました。あのコンビニの駐車場には一年たった今も「出産HELP」の文字があり、店員さんも「まだあれだけ消えてないでしょ。ここから少し行った所に住んでいる人でね、産まれたあの子も今一歳で：一年たつんだよね。一年たつてもあれだけ消えてないって不思議だね。」と話して下さいました。もしかしたらこの日の活動の場はその子につながる場所なのかもしれないと感じながら人の手でできることを丁寧にしようと取りかかりました。あつという間の活動でした。後で聴き知ったのですが、活動場所のすぐ横でパトカーが止まっていたわけをきき、なんとも言いあらわせない気持ちになりました。

のれん街に戻って聴いたおばあちゃんの大川小学校のお話、お仕事の合間に来て下さる板前さん、覚えてくれていたお店の方。おもち屋さんのお母さん。人のつながりやあたたかさを感じ救われた気持ちになりました。いつもそうでした。参加させていただくたび頂くことが多く、本当は私自身がここに來させて頂けることで支えられているのです。こうやって迎えて下さったりつながりもつてくださることでパワーをもらい一カ月なんとか保っているというか、ここに來れる自分になりたいと思えるというか…。あまりに多く頂きます。沢山の学びがありすぎて消化しきれずにダラダラとした体験記になってしまいました。

本当はここに書ききれない多くのこと学びがあり、頂けたことがありました。そう感じさせていただけたのはやはり、継続してバスを出して下さる「日本を美しくする会」の方々がいらつしやるからです。今回も本場にありがとうございました。強行スケジュールであろうと、お天気の都合でころろ変わる日程であっても笑顔で迎え入れて下さる運転手さん、そしてシェアしてくださる参加されたみなさん、席を譲って下さる方々のもとの支えで自分の学びがあり、感じられることがあります。本場にあるがとうございました。

#### ★奈良県40代 女性★

今回で四回目の参加になりますが、前回参加しました十一月からは四カ月経っていましたので、初心に戻つたつもりで参加しようと思つていました。

今回は初めて長男も一緒に参加させていただきました。貴重な二席を私たち親子にいただき、本場にありがとうございました。

また、今回も「日本を美しくする会」様からは多大なご支援をいただき、そのおかげで私たちも参加させていただくことができましたことを心から感謝申し上げます。

「支えていただいている」ことを実感した四日

間でした。いえ、この四日間以前から、そのことを感じていました。

学年末の多忙極まりない中、事前準備等にご尽力いただいた大谷先生。きめ細やかなメールを何度も頂戴し、心を被災地に向けることができました。ありがとうございます。

職場でも、出発当日、私がやらなければいけないことがあったのですが、管理職に快く引き受けてもらえ、安心して職場を後にすることができました。

今回もバスの運転手さんにも大変お世話になりました。非常にハードなスケジュールの中、体力的にも精神的にもお疲れだったでしょうに、私たちがバスを降り降りするときには常に笑顔でお声かけしてくださいました。そのお姿からも学ばせていただきました。ありがとうございます。さて、出発地の尼崎に到着しますと、小峠さんなどが受付をしてくださっていました。早く来て働いてくださっていることに頭が下がりました。バスの中での自己紹介では、色々考えさせていただきました。「学級がしんどい」というようなお話をしてくださった先生が数名おられました。悩み、苦しみ、それでも前を向いて進んでいこうとされているお話を伺い、自分の体験と重なり、大変共感いたしました。「辛いのは私一人ではない」という思いが、大きな心の支えとなりました。

今回は船での移動もあり、個々の荷物も何度も持ち運ばないといけなかったのですが、その際、古松さんがサツと動かれ、どんどん積み込みをされているのを何度も拝見しました。いつも笑顔で、自然にこのような行動をされる古松さんからは、今回多くの学びをいただくことができました。ありがとうございます。

今回作業をさせていただいた金華山のことは、私は何も知りませんでした。事前に調べてもらっていた方が数名おられ、自分が恥ずかしくなりました。その地を知っていると知らないのでは、その地に対する思いも変わってくると思うのです。これは教材研究とも繋がることですが、教員としても常に追究する心を忘れないようにしようと思えました。

作業は、まず貯水槽付近の石を運ぶことから始めました。周りの方々は、ご自分ができる一番しんどい作業を進んでくださっていました。私がバケツに石を入れて運んでいると「大丈夫ですか？」「持ちましようか？」と何度も声をかけてくださいました。私はその優しさに感動しました。また、富松さんはすれ違うときに笑顔で視線を合わせてくださり、そのたびに疲れがとんでいくように、改めて笑顔が持つ力を感じました。ありがとうございます。

お昼は大変おいしいパンをいただきました。こ

のときにも、若い方々が中心となって、パンを配ってくださいました。ありがとうございます。午後は、川や土手の清掃作業から始めました。急な斜面にガラスや茶碗のかけらなどが落ちていました。また、川の中にはお土産を入れる袋がたくさん落ちていました。震災で奪われた日常の残骸を、一つひとつ拾わせていただきました。その作業が終わると、次は東京の方と一緒に公園の掃除をいたしました。落ち葉や小枝と鹿のフンに覆われた公園を竹ぼうきと熊手で掃きました。

あつと言う間に時間が経ってしまい、夕食の間となりました。大谷先生が手配してくださいましたお弁当はとてもおいしかったです。これだけの数を心をこめて作ってくださいましたお店の方にも心から感謝しています。ありがとうございます。夜に行われた交流会でも、多くの学びがありました。

童心行で司会進行をくださった山崎さん、富松さん、濱口さん、前田さんは本当に素晴らしかったです。参加者の心を和ませ、お互いの心を打ち解けさせ、最後には全体が一つのチームになることができたように思います。一つひとつのゲーム等も大変勉強になりました。ぜひ教室で使いたいと思います。ありがとうございます。

また、渡辺さん、千種さん、阿部さんのお話

は大変感動いたしました。皆さん、利他の精神をお持ちの方です。

現地スタッフの渡辺さんは、その生き様にも驚きました。質問の答えにも驚き感激しました。私たち小学校教員が子どもたちに何を伝えるべきかという質問に対して、ご自身が子どもたちに話された内容を教えてくださったのですが、それは被災地のために何ができるかということではありませんでした。子どもたちが被災したときのためのスキルなどのお話だったので。被災した現場を知っている渡辺さんだからできるお話ですが、その優しさに感動しました。

千種さんのぶれない語りには引き込まれました。お話の中で、「掃除に学ぶ会の活動は、雨でも中止しない。継続しなければ、心が続かない」というような内容がありました。いつも言い訳を考え、途中であきらめてしまう自分自身を猛省しました。

翌日、目覚めると、境内を掃除している方がたくさんおられることに驚きました。後で聞いた話によると、トイレも掃除してくださいましたそうです。ギリギリの時間まで寝ていて、自分のことしか考えなかった自分を恥ずかしく思いました。この日の作業は予定変更になりましたが、時間いっぱいまで前日の公園で掃除をさせていただきました。

帰りの船では、若い船長さんから貴重なお話を伺うことができました。その中で特に印象的だったお話は、「不謹慎かもしれないが、今回の震災が自分を成長させてくれた」というお話です。起こってしまったことをどうとらえるか……。辛さや悲しさをたくさん抱えた船長さんが、それでも前向きに生きようとされている…。私もそうありたいと強く思いました。

牡鹿に戻り、元宅地で作業をいたしました。それまでに何度も耳にした「丁寧にさせていただくことを心がけ、土を掘り、一つひとつ丁寧に拾って、仕分けしていきました。このとき思ったのは、丁寧にするにはもちろん大事ですが、効率良くできればさらによく、そのためにはその作業に適した道具が必要だということです。これからは道具の準備も意識してします。

作業が終わり、今回も牡鹿ボランティアセンター横の商店街に行きました。前日のお弁当を作ってくくださったお店で食べさせていただきました。また、他のお店で売っていた昆布料理などもいただきました。いずれも大変おいしかったです。お店の方もお話することができ、とても貴重な時間となりました。

また、今回も大川小学校に行かせていただきました。着くまでのバスの中で、大谷先生から「はなちゃん」のお話を聴き、おうちの方の深い深い

愛情、そして無念さ、さらに教員として子どもたちの命を預かっている責任感を感じ、大川小学校に行かせていただく意味を自分の中でしっかりと考えることができました。

帰りのバスの中で、皆さんの感想を伺い、それぞれが深く学ばれたことがよく伝わってきました。私では気付くことができなかったことにも気付かせていただきました。それは、解散後も同様でした。一緒に帰ってくださいった廣谷さん、渡邊さん、水野さん、小峠さんから伺ったお話で、私自身、学びの反芻することができました。

さらに、その夜に行われた報告会で、大切なことを学ばせていただきました。浅野さんのお話からは、震災時のことがリアルに伝わってきました。そして、私たちが今しなければいけないことがわかりました。

家族でよく話をする事、人のために動ける人になること。平常の毎日を誠実に生きることが、もしものときの力になるのだと思えました。

帰宅すると、母がご飯を用意してくれていました。私と長男が家を空けるので、一人残っていました。次男を見るために遠方から来てくれた母。嫌な顔一つせず、留守番をしてくれていました。そんな母にも心から感謝しています。

感謝で始まり、感謝で終わりました。おそらく私に一番足りないものがこの感謝の心だと思う

のです。「支えていただいている」ことに何度も気付くことができました。

時系列にただただ書き連ね、読んでいただくに  
くい文章になりました。お許しください。

今回も多くのことを学ばせていただきました。これらのことを自分の体に染み込ませ、これからの生活に生かしていきます。

皆様、本当にありがとうございました。

★岡山県30代 男性★

平成二十四年三月九日の午後から約二時間、復興地の状況について知るとともに、被災された方々に心を寄せ、「命」の尊さを学ぶという目的のもと全校生徒を対象に報告会が行われました。門脇小学校の小学生・教員の証言映像「三月十一日を生きて」石巻・門脇小・人びと・ことば」を鑑賞し、グループディスカッションを行い、生徒の心から出た想いや言葉を感じる事が出来ました。その想いをいくつか紹介したいと思います。

▼ひとりひとり震災に対する思いや考えは違っていて、どんな震災かもそれぞれに体験したことが違うと感じました。しかし、亡くなった人への気持、今後の日本への思いはみんな同じで、ひとつになっ  
っているんだということを強く感じました。

▼実際にボランティアに参加していない自分には震災を語る筋合いはないと思います。しかし、ひとつだけ言えることがあるとしたら、今は日本中が試されている時であって、一つになるべき時だと感じました。時間をかけてじっくりと復興へ全員が協力していくことが大事だと思いました。

▼「瓦礫」ではなく、「我歴」と書くということが印象に残りました。ごみではなく、人生の足跡、つまり宝だと感じました。

▼映像を見ている時、体育館がとても寒かったです。ジェットヒーターにあたりたいと思いました。が、地震が発生した夜は、とても寒い中電気もなくストーブやヒーターも使えず身を寄せ合って過ごしている被災者のことを思うとまだまだ私は人ごとだということに気づかされました。

▼この報告会を終えているいろんな人が意見を言ってくれました。その中で自分を含め、全員が被災者の方に申し訳ないという思いになり、今を一生懸命に生きていこうと思えました。被災者の方はおもつとやりたかったことや、やりたいことがあってもできなかったかもしれない。自分たちは恵まれた環境にいますので今を一生懸命生きたいです。

▼実際に行ってきた生徒会の人の発表は、自分のいつも見ているニュースや新聞とは違い、とてもリアルに伝わってきて、東北の人の思いというも

のを感じたら、自分はおもつといろいろなことができるのではないかと思います。

以上のような生徒一人ひとりの言葉や思いを胸に今回の被災地に学ぶ会に参加させていただきました。

平成二十四年三月二十三日から二十六日までの活動の中で今まで以上のエネルギーを充電してくることが出来ました。まずはじめに、無事に現地にたどりつけたのも全ては神姫バスの運転手さんによる安全な運転のお蔭です。人の思いや命のある場所から目的地へ、予定時間通りに運ぶということがどれほど大変なことなのか、真剣に運転をされている後姿から感じ取ることが出来ました。本当にありがとうございました。（今後私も多くの人の命を背に運転する時には、おもつと真剣にハンドルを握ろうと思いました。）

次に、今回の活動場所である金華山で頂いた想いについてです。船でしか行くことができない聖地へ初めて足を踏み入れさせていただき、貯水タンクの土をチーム一丸となり運び出す作業をさせていただきました。それぞれの役割を精一杯する事で、土嚢袋の道が出来ていく様子には、なんとも言えないものを感じました。袋ひとつにも多くの方の思いが込められ、最後には道の一部分と なっていく様子。ここで一番感じたことは、行き のバスの中で配布された「清風掃々」の中に書か

れていた、鍵山相談役の言葉。「ゼロから一への距離は、一から千までの距離より大きい」と言う言葉です。この言葉通りのバケツリレーが展開される中で、スコップで土を掘り袋に入れる人。詰められた土の入った袋を縛る人。そして、何より重たい土嚢袋をフェンスを越えるように投げ出してくれた、大阪産業大学の野球部の皆さん。積み上げられた土嚢袋をひとつずつ持ち上げ次の人へ手渡しをしていき、何人もの手を経て最後は道の一部分として置かれていた様子。この行程の中を取ってみても日々の実践を大切にされているみなさんの素晴らしい行動力を拝見する事が出来たこと本当に感激しました。片手で次の人へ渡されるのではなく、両手で渡されていた方が多かったこと。いつも大谷先生が言われている「丁寧」を実践されている姿の連鎖が本当に綺麗な思いやりのバトンリレーに見えました。

夜の童心行においては、山崎先生を中心とした若手の先生方で準備された活動を心の底から楽しみながら多くの方と交流をさせていただきました。関西関東、年齢、性別関係なく触れ合い、みんなが復興に向かっていくエネルギーを共有させていただき、チャージさせていただいているということに心から感謝しております。事前準備を篤い思いで用意してくださった先生方、本当にありがとうございました。（下品な言葉を投げか

けてしまい、本当に申し訳ありませんでした。」

まだまだ多くのことが思い出されますが、活動を終えて帰ってきてからの浅野さんが言われた

言葉、『家族のありかた』について最後に書かせていただきましたと思います。私を快く復興地へ送り出してくれた学校の先生方や、寮の子ども達、そして妻と三人の子どもたち。支えてくれる存在があるから、今の私の思いや行動に至ることが出来たのだということ。私の代わりに守ってくれる人がいるから私が復興地で活動できたのだということ。全ては心の繋がったチームの中の一人であるという謙虚さが次なる新たな一歩へ繋がりを拡がっていくのだということに気付かされました。今までは、カッパを洗い、長靴についた泥や土を洗い流すだけで終わっていましたが、妻や子どもたちの靴にも手を伸ばしている自分が家に帰ってからいました。全て妻が「当たり前」のようにやっていてくれたことを、私なりにやらせていただき、今まで気に留めたことがなかった子どもたちの靴を手にとってみると、こんなにも大きくなっていったのだと気付かせていただきました。最後になりましたが、復興地で想いを届けられている皆様、日本を美しくする会の皆様、会に参加された皆様、そして私自身の心に次の一文を贈りたいと思います。

『一家仁なれば 一国人に興り、一家讓なれば

一國讓に興る。』『「大学」より

★★大阪府20代 女性★★

第十回被災地に学ぶ会に参加させていただきました、ありがとうございました。参加申し込みのメールを送らせていただいただけで、全てが整えられているこのような機会に参加できるということは、本当に有難いことだなと感じました。往復26時間間の安全運転と、プラスαのやさしさをもってご苦労下さったバスの運転手のお二方、牡鹿ボランティアセンターの方々、そして日本を美しくする会に義援金を寄せて下さった方々、そして、細かい所まで丁寧に準備して下さいました大谷先生、本当にありがとうございました。このご方の想いもなければこの活動は成り立っていないんだなと：そんな尊いこの場に参加できましたことに、感謝の想いでいっぱいです。

私が一番印象に残っていることは、自然がともきれいだっただけです。今回現地に初めて行かせていただいたのですが、テレビの報道では悲しい映像ばかりにどうしても目がいつてしまい、被災地といえば、悲しいイメージばかりがありました。しかし、実際現地に行かせていただいて、金華山という場で活動させてもらうと、本当に美しい自然に目が奪われました。山がやさしく包んで

くれ、海は爽やかな風を運んでくれて、森も神秘的で：鹿もいて、水も流れて、自然たちが生きている：と思います。

活動中、私は土嚢袋に土を詰める作業をさせていただいていたのですが、きりがいかもしれないけど、必ず気持ちを入れてやろうと一つ一つしている、ふと空を見上げると素晴らしく晴天で、自然たちに応援されているような気分さえなりました。被災地の被害をまじまじと見ると、やりきれない想いも襲ってきました。一方、自然が豊かな所にも目を奪われ、希望に感じた時間でした。

途中、宮城県に住んでおられる被災者の三上さんという74歳のおじいさんとお話する機会があった、すごく悲しいことがあったけど、金華山へ来ると自然たちに心が励まされるとおっしゃっている、なんだかここは本当に不思議な力が働いているなと感じました。

金華山を三上さんは65年以上知っているけど、今回こんなことになって、悲しいけれど、必ず復興させてみせると、力強い声でおっしゃっていました。ここに必ず水を通して、昔のように人がいっぱい来る所にさせてみせるんだと：。74歳のおじいさんがこんなに先頭に立って、私たちボランティアと一緒に活動して下さいる姿：。まだまだ私も頑張らなければと、私の方が、なんとも



言えない力をもらってしまいました。

今回、バスでいろんな先生方が、来る動機に、『何か力になりたいと思った』とおっしゃっていました。また、ディスカッションでは、自分にも子どもがいて、家族がいて、他人事とは思えなかったから来たとおっしゃる方もたくさんおられました。

今回の震災は日本人にとって本当に悲しい出来事だったと思います。でもこの震災をきっかけとして、日本人の心が善の方向に変わろうとしている、動こうとしていると、肌で感じさせていただきました。私たちにできることは少ないかもしれませんが、でも、震災で幼い命が亡くなり、たくさんの方が犠牲になった中、私たちは生き残りました。これって、生かされているんだと…思いました…。生かされている私たちにはしっかりと生きる責任がある…。亡くなられた方の分まで、自分の今できる限りのことを、目の前にあることを、精一杯気持ちをこめて、感謝の想いをもってすることが私の責任だと、感じさせていただきました。今回足を運ばせていただいて、他にも本当に多くのことを学ばせていただきました。本当にこのような貴重な機会に参加させて頂いて、感謝の想いでいっぱいです。本当に、ありがとうございます。

★兵庫県70代 男性★

報道される被災地の模様では見えないところを自らの五感による実態掌握、復旧、復興に何が求められ、私は何にかかわれるのか？ ただ寄り添うだけしかできないのかなどを学ばせていただく機会に感謝しつつ孫のように若い教師を目指す学生あるいは現職の先生達と共に学びの場所と機会を与えていただいた四日間でした。

数えれば枚挙の暇がないほどであるが、次ぎの3点は特筆すべき事柄であります。

① 豊かな感受性を持ち合わせた方々と次々にご縁を結ばせていただき、それは私のみならず参加者のみなさんが次々と連なり拡大して行っていること（縁尋奇妙、多逢勝因）

② このような素晴らしい先生方が子供たちにしつかり日本人としての誇りや、尊厳、家族や隣人、故郷に対する愛情、そしてこの国をいとおしく思う事などを説き示してくれるであろうと信じられる、そうであれば、この国の将来をそんなに心配することは無いと確信できる。

③ この学びの旅の期間中「ひとつ拾えばひとつだけきれいになる」という日本を美しくする会の実践目標が参加者の何気ない所作を見につけても普段に根付き始めていることを嬉しく拝見させられた

など貴重な体験を数多くいただきました、皆様方の益々のご活躍を心からお祈りいたします。合掌

★大阪府20代 女性★

私は今回が初参加でした。ずっと教師仲間から被災地に学ぶ会の話を聞いており、行きたいと思いつながら、なかなか動きだせずにいました。今回も先輩の先生からお誘いいただくことで、行くことに抵抗があるというよりも、私の場合は力もスタミナもない私が行って何かお役に立てるのかという心配と貴重な定員数をそんな私が埋めても良いのかという迷いがありました。しかし、やっぱり行って良かったです。四日間で多くの学びを得ることができました。何より、何度もお話に出てきたボランティアを「させていてほしい」という感覚が私にとって新鮮な学びでした。

被災地に行くまで、震災から一年が経って、テレビや新聞では復興が進んでいると感じるようになってきた。被災者の方々が前向きに頑張っていると感じるようなニュースを目にすることが多かった。だから、私の中の被災地は、恥ずかしながらいぶん復興が進んできているんだとイメージしていました。しかし、バスが石巻に入ると外の景色を見ると、積み上げられた車の山、

壊れかけたままの家、流されたままの看板、陥没した道路、色々なところがまだ壊れたままという現状でした。それでも、始めの頃に比べるとずいぶんきれいになったと話されているのを聞いて、震災の凄まじさを感じました。また、ボランティアリーダーの話で被災者の方々の心の中にまだまだ深く癒えない傷があることも知り、私のイメージとはずいぶん違う現実に戸惑いを感じました。

金華山で私が行った内容は、石を運んだり、川や川の近くに落ちている物を拾ったり、鹿山公園の掃除をするなどでした。作業をする中で、私は自分の弱さを二つ知りました。一つは「大雑把である」こと。もう一つは「めんどくさがり」ということです。作業前に多くの参加者が瓦礫はただの瓦礫じゃない。人の思いが詰まったがれきなのだと話されていて、丁寧な扱おう意識を持つとうと思えました。しかし、どの作業の時もふと気づくと片手で物を拾っていたり、落とすように袋に入れていたり丁寧という意識がすぐ薄れていて素の自分が出ていました。また、一緒に作業した方が丁寧に鹿山を掃除されていたり、作業が終わって施設へ戻る道中でも、道に落ちているゴミを拾いながら歩かれたりする姿を見て、どれほど自分の意識が甘く、気付いていなかったかを姿でもって教えていただきました。一日目はそんな

な自分を悔しく思い終わりました。

夜の交流会では東京チームの方と一緒に交流しました。今回ご縁することができた皆様と話の中で、他の参加者の皆さんもそれぞれ自分の中に気付きがあり、それを二日目に生かしていくと決意されていました。たくさん参加者の皆さんとかわる中で、作業の時に感じた自分の気付きを二日目には改善できるように意識しようと思ってきました。悔しさだけで終わらなかったのは、たくさんの仲間の姿のおかげです。ご縁に感謝するのは、写真や生活用品が多く、その場所に多くの思い出が今も埋まっているんだと感じ、前日の気付きもあって丁寧に作業するよう自分なりに意識しました。

作業を終えると大川小学校へ行きました。バスの中で大川小学校の話聞き、とにかく辛いという思いに駆られました。四十分間動き出せなかったこと、裏山に登らなかつたこと、七割の児童が津波でなくなってしまったこと、遺族の方の思い、先生方の思い、たくさんたくさん話していただいた内容すべてが心に痛く突き刺さりました。バスを降りる前から涙が止まらず、バスを降りた後は止めどなく涙が流れ続けました。現地に行かないと何も分からない。そう思いました。裏山は小さな子が登れるような山ではなかつたし、真つ平ら

な土地でどこに逃げようか、とか、大パニックの中何が正しい選択であるかなんてきつと簡単に決められないことだったんだと感じました。当事者でない者が当時の対処についてどうこう言うものじゃないと思います。だけど、同じ小学校教師として、大川小学校の先生方がどれほど無念であったか、子どもたちがどれほど怖い思いをしたのか、遺族の方がどんなに悲しみ、苦しんでいるのか。想像しきれませんが、思いを寄せれば寄せると胸が苦しく辛い感情がわきました。また、それと同時に私の目の前にいる子どもたちがとてつもなく愛おしく思えてきました。命がある。生きています。それだけでなんて有難いことか。大川小学校の校舎はまるで巨大な怪獣の爪でえぐられたような状態のままでした。ただただ静かに見て、感じて、思いを寄せて、亡くなった方のご冥福をお祈りしました。

四日間を通して学んだことは、ボランティアをさせていてほしいということ。日本を美しくする会がバス代を出してくださること、バスを夜通し運転してくださる運転手さんがいること、道具も食事も仕事も用意してくれている現地の方がいること、何より被災地に学ぶ会をまとめ、様々な打ち合わせや調整を行ってくれる大谷先生がいること。そんないろいろな方のご配慮の上でボランティアをさせていただき、人としての生

き方を学ばせて頂けているのだと感じます。皆様  
に感謝。ご縁に感謝です。

被災地に学ぶ会から帰り、今、まず自分が見て、  
感じて、知ったことを多くの人に伝え広めること  
が大切だと感じています。浅野さんが言われてい  
たように今被災地には「心」が必要だと思ってい  
ます。遠く離れた地にいる私たちこそ、思いを寄せて、  
決して忘れてしまわないように、多くの人が思い  
出すきっかけができるようにしていこうと思っ  
ます。そして、日本として一緒に復興をしていき  
たいです。私自身もまた参加し、被災地に心を寄  
り添わせていきたいと思えます。ありがとうございます。  
いました。

★★和歌山県30代 女性★★

震災が起きて、最初は純粹に「助けに行きたい、  
力になりたい」とだけ思うだけで「ボランティア  
に行くのではなく、自分の学びの為に被災地をお  
借りする」という発想はありませんでした。回数  
を重ねるにつれて、気が付けば色々な方々から人  
としての生き方を学ばせて頂きながら、六回も  
参加させて頂いていました。

しかし、一年たつて最近思っていたことは、私  
たちの震災ボランティア活動は、多くの亡くなら  
れた方々や、家、仕事、土地を流された方々の「犠

牲」の上に成り立っているということ。そこ  
で、意気揚々と「くを学ばせて頂きました」と  
いうのはどうしても正直、違和感を感じる自分  
がいました。あのように多くの命を犠牲にしてま  
でも私たちが学ぶべきものとはなんだろうと思  
います。命という価値はそんなに軽いものではない  
はずです。私たちに学んで貰うために命を犠牲に  
したわけではない。

今回は、自身の学びよりもとにかく被災地  
のお役にたちたいと思えました。もしかするとこの  
会の主旨には私は合わないのかも思うように  
なり、申し訳ないので今回で参加させて頂くのは  
最後にしようと思っていました。

しかし、この五日間を通して、その考えを改め  
る大切なことに気づきました。被災地へボランテ  
ィアへ行くのに一番大切なものは、「心」だと。  
毎回大谷先生が、必要な持ち物の所にそれを書い  
てくださっています。

そしてこの「被災地に学ぶ会」はその一番大切  
な「心」を育ててくれていたんだと…。

皆さんはもう既に気付かれておられたと思  
いますが私は一年たった今、ようやく気付かせて頂  
きました。「心」、それも、精神性の高まった気  
持ちではないと現地での活動（我歴の扱い方、現  
地の方との接し方、チームで活動するときの気配  
り、物の見方、心をどこまで寄せることができる

か）ということが態度に現れそこに何かしらの雲  
泥の差ができると思うのです。私自身の学び「気  
持ちの入ったボランティアに繋がるんですね。

ここでもう一つ、考えなければいけないことに  
気が付きました。ボランティアで被災地へ行った  
方々は、命や家族日常の大切さに気付き、被災地  
に行ったことは良い経験だったと言います。プラ  
ス方向に自分が変われるのです。でもそれはボラ  
ンティアを終え帰宅し、普段と変わらない状況  
中で変われるのです。家族を大切にしようと思っ  
た方は、すぐに家族に優しい言葉を掛けられる状  
況にあり、子どもが愛おしいと思えば抱きしめる  
ことも出来る。仕事の大切さを学んだ方は翌日職  
場に行けて、精魂込めて仕事をする事が出来る。  
しかし、被災地で大切なものに気付いた方々は、  
気付いても普段の状況が大きく変化してしまっ  
た中で気付くのです。気付いても今更、何もでき  
ない状況の方もおられるのです。抱きしめたい相  
手がいても、もうこの世にいない。体温を感じる  
こと、笑顔を見ることはできない。どれだけ辛い  
でしょう。そう思ったとき、気づきの奥には果て  
しない闇も広がる。同じ内容の気付きだったとし  
ても、ボランティアと被災者は、全く違う日常生  
活を送らねばいけません。この差は大きいと思  
います。その心の穴埋めはどうしたらよいのでしょ  
うか、今、被災していない私たちに何が分かる

いうのでしょうか。心を寄せるとは言いながら、本当にそうしているのでしょうか。

講演会で浅野さんは仰っていました。被災地には何が必要ですか？という質問に「心です」と。では「心」で何ができるでしょうか？私は心でお祈りすることができると思いました。そしてそのお祈りする心を持つていけば自然と被災地へアンテナを張ることができて、それが反応して何らかの情報が自然と耳や目に入ってくると思います。そして入ってきた情報により感じた事や思ったことをそのまま話したり、行動したりすればよいのかなと思います。個人個人でアンテナの形は違うのでそれぞれのやり方があった方が支援のバリエーションも広がるかもしれません。時には團結することも可能です。なので、今の私にできることは「心」をいつも研ぎ澄まし、アンテナを磨いておくことかと思えます。そしてできるだけ身近な人々とシェアしてまた自分が発信源として伝えることも使命なのかとも思います。

これが今回の「第十回被災地に学ぶ会 in 金華山・牡鹿半島・大阪」を通して考えたことでした。

最後に一曲唄わせて頂きます。有り難うございました。

愛 本当の意味はわからないけれど

誰かを通して 何かを通して

思いは繋がっていくのでしょうか

遠くにいるあなたに 今言えるのはそれだけ

悲しい昨日が 涙の向こうで

いつか微笑みに変わったなら

人を好きに もっと好きに なれるから

頑張らなくていいよ

愛 それは強くて だけど脆くて

また争いや 自然の猛威が

安らげる場所を奪って

眠れずにいるあなたに 言葉などただ虚しく

沈んだ希望が 崩れた夢が

いつの日か過去に変わったなら

今を好きに もっと好きに なれるから

あわてなくていいよ

雨の匂いも 風の匂いも

あの頃とは違ってるけど

この胸にいるあなたは 今でも教えてくれる

悲しい昨日が 涙の向こうで

いつか微笑みに変わったなら

人を好きに もっと好きに なれるから

頑張らなくていいよ

今を好きに もっと好きに なれるから

あわてなくていいよ

(BANK BAND 「to you」)

★大阪府40代 男性★

あの忌まわしい震災から一年が過ぎました。

現地に行かせていただくたび、広大な更地と崩壊した家屋が視界全体に入りこんできて、復興への道のりがいかに遠いかを痛感させられます。たとえ震災の報道が少なくなっても、被災地のことを想う方々、なかでも何らかの行動を起こしたいのに行けない有志の方々が私たちの身の回りにもたくさんおられます。そのなかで、今回もこうして牡鹿半島に来て、被災された方々のお手伝いをさせていただけること―この幸運がいかに「有難い」ものか。「被災地に学ぶ会」を支えて下さっている全ての方々に、心より感謝申し上げます。行けば行くほどに、陰で私たちの活動を支えて下さっている方々のご苦勞を想わずにはいられません。牡鹿ボランティアセンターの方々はそれぞれ自らの生業を辞してまで、私たちの活動のお膳立てをするために常駐して下さいます。どの地域にどのような作業がどれくらい必要とされているかの把握、土嚢袋やスコップ、ボールから一輪車、ひいては夜を越すための暖房器具にいたるまでの用意、役所等の公的機関との折衝―実にさまざまなお準備をしていただいた上で、私たちの活動が成り立っています。

ボランティアセンターの方々と連日連絡を取り合って「学ぶ会」を組織して下さいます大谷先生に

も衷心より感謝いたします。私たちのプログラムをつくって下さるだけでなく、移動の車中でも陣頭に立ってさまざまな思いや心構えなどを伝えて下さり、その微に入り細に入った陰のお膳立てには敬服するよりほかありません。毎回この感想文を取りまとめ下さるのも大谷先生です。本当にありがとうございます。

そもそも、大谷先生のもとで私たちが活動できるのは、石巻専修大学に早々とベースキャンプを設営して現地でのご縁を紡いで下さった「日本を美しくする会」の皆様のご尽力のお陰です。そして、この活動の経済的土台である浄財を下さった、全国の篤志家の皆様にも御礼申し上げます。今回の「学ぶ会」では、東京より千種様、阿部様をはじめとする「日本を美しくする会」の皆様がお越しになり、一緒に活動をさせていただけの好運が与えられました。いつもにも増して、素晴らしい活動になる予感がしました。

初日の活動は牡鹿半島沖にある東北三大霊山のひとつ、金華山における作業でした。離れ小島であることから、いまだ残骸がむき出しの状態でした。仮設の栈橋だけが真新しく、その銀色の骨組みを鈍く光らせていました。島に足を踏み入ると、鳥居や灯籠までが崩落してしまっていました。その光景はかなりの衝撃でした。

私たちの作業内容は、貯水池になだれ込んだ土

石を山下まで搬出して積み上げ、それを土台として重機の通れる道をつくることでした。午前も午後もただひたすら大小の石を運んで山下に積み、貯水池の土砂を入れた土嚢袋をバケツリレー方式で下ろし続けました。肉体的な負荷としては今までの「学ぶ会」のなかで最も過酷だったかもしれません。しかし、みんなで声を掛け合うことにより、お陰さまでその過酷さをしのぐことができました。作業の終わった午後四時すぎには、上腕の筋力も握力も果ててしまったようでした。

作業を終え、私たちの宿泊場として神職が提供して下さった本堂に戻ると、そこには水の入ったバケツと洗浄液が準備されていました。さらに、本堂の大広間に荷物を入れ、服を着替えると、「牡鹿のれん街」特製の「くじライス」がそこに用意されておりました。何もかもを誰かに準備していただいております。作業の疲れに負けたのか、その辺のところは全く無頓着となっていました。自分を、今更ながら恥じいるばかりです。

夕方六時になると、東京チームと大阪チームが大広間で合同し、交流会を行いました。山崎先生、富松先生、濱口先生、前田先生たち若い先生方のお陰さまで、交流会は円滑に進められました。会の後半には、牡鹿ボランティアセンターの渡辺様や「日本を美しくする会」の千種様、阿部様よりありがたいお話を拝聴いたしました。「掃除継続

のコツは雨天決行」「誰にでもできることを誰にでもできないくらいやる」といったお言葉が、今も強く印象に残っております。最後に各チームの代表が数名、前に出てあいさつの言葉を述べられました。なかでも、岡山より参加された沖久先生のお話に感動いたしました。言葉の内容そのもの以上に、全身全霊で表そうとなされたその想いが素晴らしいと感じました。思えば、私たちが帰阪後におこなうべき役割も同じで、決して「現地の状況説明」を言葉巧みに行うことではなく、現地で感じた言外の想いやパワーを周囲に感じていただけるよう生きていくことなのかもしれせん。

翌朝、私は六時に目覚めました。六時半にラジオ体操ということだったので、朝の支度をすることも二〇分あれば十分だと考えて、六時ぎりぎりまで寝ておりました。しかし起床と同時に、それがいかに自分本位の行動であったのか、思い知らされることとなります。トイレのドアを開けると、小便器の前で一斉にトイレ掃除が行われていました。本堂前でも、何人もの方々がお掃除をなされておりました。ほうきで掃き掃除をなされている方々だけでなく、踏み台を外してその下に溜まった落ち葉やゴミを丹念に清掃されている方もおられました。その光景は壮観で、朝のすがすがしい空気がさらに清浄化されたように感じました。

それは、自分がどれほど至らない人間なのかを、まざまざと見せつけられた瞬間でもありました。

朝のミーティングで大谷先生より予定変更の通知があり、金華山を早々に発つことになりました。二日目の作業は牡鹿半島で行うとのことでした。ボランティアセンターとの電話連絡、熟考したのちの最善プランの決断、金華山での作業を中断するという事です。さぞかし悩ましいご決断だったに違いありません。またもやリーダー役の大谷先生や千種様、阿部様にお膳立てをしていただき、本当にお世話になりつ放しでした。ありがとうございます。

金華山から牡鹿半島へは、何班かに分かれて乗船することになりました。私は最後の最後に乗船することにしました。私は「お先にどうぞ」と譲る気持ちで最後の乗船を選択したつもりでしたが、よくよく考えると、何度もこの集まりに参加させていただいている自分なので、大谷先生とともに真っ先に乗船すべきだったと今になって思います。真っ先にボランティアセンターに顔を出して二日目の作業内容を把握し、私たち全体が円滑に動けるよう手配すべきだったと思います。こうやって思い出しながら書いていくにつれ、今ひとりで自分のおめでたさに赤面しております。

最後に乗船する人間として、あと四日ほど金華

山に残ると仰っていたボランティアセンターの渡辺さんに心より御礼を申し上げようと思いましたが。前日の交流会では少し険しい顔をされていた渡辺さんでしたが、このときははっきりとした笑顔で応じて下さいました。「皆さんの活動にびっくりしています、本当に作業が進みました。八方終わったようなものです」と渡辺さんが謝意とともに、境内で私にきつく握手をして下さいました。

「海上タクシーなべちゃん」号に乗せていただき、いよいよ牡鹿半島に戻ることになりました。その船中では、震災当時のお話を少しお聞きすることができました。こうやって渡航に使っている船は、どれもが津波被害を免れた「奇跡の船」であるということでした。どの船も当時沖で活動の最中だったため、大きなうねりこそ感じたものの、まさかあれほどの巨大津波とは思わなかったそうです。また、金華山には地震の直後、たまたま観光客が十数名おられて、船上タクシーの方は「沖に出る方が安全だから」と観光客に乗船を促したのですが、なかなか応じられなかったそうです。確かに、海について素人である私たちが、地震直後に沖に出ようと言われても、即座に納得することはできないかもしれません。結局、論じられた観光客が乗船し、船は津波直前の間一髪で沖に出ることができたそうです。

二日目の作業場となった牡鹿半島の給分浜では、埼玉便教会の皆さんと共同で活動させていただきました。広大な更地に散在する大小の石やコンクリート片、ガラス片を片づける作業でした。その更地は地震直前まで住居が密集していたところで、そこに住まわれていた方々は、すぐそばに建てられた仮設住宅に今も生活しておられるとのことでした。その方々は、自分の住処が流されて更地となった場所を毎日目にしなければなりません。どれだけ無念なことでしょう。その無念さを少しでも和らげることができるよう、一生懸命に丁寧に作業しようと心がけました。

作業中、掘り返していくと、壁のブロックらしきコンクリート、大小の石だけでなく、陶磁器の欠片やお椀、化粧品、市販薬、なかには写真も出てきました。まさにそれらは「瓦礫」ではなく「我歴」と呼べるものばかりでした。泥中に湧き出てくる雪解け水が手袋にしみこんできて、とても冷たく感じましたが、現地の方々のことを思うと泣けてきて、頭の中が真っ白になりました。かじかむ手を土中の奥深くに突っこんで、一心不乱に掘り返しました。途中でパトカーが近くに停まりました。後から聞いたところによると、新たに人骨らしきものが見つかったそうです。この給分浜でも、搜索活動は決して過去のものではなく、現在進行形なのです。

作業が終わり「牡鹿のれん街」で食事をいただいたあと、北上川にある大川小学校に向かいました。その道中、バス車中で今回も大谷先生よりお話をいただきました―観光バスを小学校の献花台に横付けすることが遺族のお気持ちをいかに逆撫でするかということ。そして、行方不明の子をどうしても見つけ出したいお母さんが重機の免許まで取り、今も搜索しているという事実。私はそのお母さんの執念を改めて思い返しました。それは「一心不乱」などと形容できるレベルではなく、ずつとずつと泣きじやくりながら、涙が枯れはてようと、見つけ出してみせるという気持ち、きつと狂人になってしまいう直前の状態まで精神的に追いこまれてのことだろうと感じました。献花台の前で無心に祈るよりほかありませんでした。

帰りの車中、今回はほとんど眠ることができませんでした。そこで、ぼんやりと車窓から流れるオレンジ色の景色を見ておりました。走行車線から追越車線、また走行車線へと巧みに車線変更をなさる藤井様と新西様の運転ぶりが、できる限り早い帰阪を目指してのことだと、ありありと分かりました。こちらのスピードを考慮せず、突然追越車線に進入してくるトラック。そのたびにブレーキを踏まねばなりません。しかも急なアクセルとブレーキは厳禁ですから、お仕事とはいえ本当

に神経が擦り減ることだったでしょう。よくよく振り返ってみると、泥を車内に上げないためステップに濡れタオルを敷いて下さったり、私たちが全員下車したあと、通路の掃き掃除を常に下さっていたことが思い浮かびます。また、私たちを活動場所まで運んで下さる際にも、広大な更地と悪路の中で、どの道路を選択し、どこに駐車するのか、一つひとつの判断にも神経を使われたことでしょう。藤井様、新西様、本当にありがとうございます。

眠れない車中では、カメラマン役をお引き受け下さっている渡邊様のことを考えました。被災した地を見てその凄惨さを憂えたり、美しい海や陽光、また夜空の星に感動したり、作業する同志のはたらきぶりに元気づけられたりと、私たちは目を媒介にして実にさまざま視覚情報を受容します。とはいえ、私たちの場合、たとえば考え事をしていたり、たとえば疲れてぼんやりしていたりと、目の前の景色を常に視覚情報として受け取っている訳ではありません。ただ、見たいときに見たい部分を見ているだけです。ところが渡邊様の場合、どんなときもその両目はファインダーとなり、一分一秒たりともぼんやりすることなく、常にシャッターチャンス伺っておられます。散在する作業グループをあちこち移動しながら、何千枚もシャッターを切られるのです。歩行の距離

はきつと私たちの何倍にもなるでしょう。また、私たちの休憩時も、渡邊様にとってはお仕事の間でしかありません。一刻も休めるときなどないのです。本当は私たちとともに土嚢袋や石を運び、汗を流したいに違いないでしょうに。四六時中カメラマン役に徹して下さっている渡邊様のプロ魂には、敬服するよりほかありません。この感想文を書いている今も、すでに写真を精選し、ホームページ上に投稿して下さっています。渡邊様、本当にありがとうございます。

今回の「学ぶ会」はいつも以上に負荷とインパクトの大きなものだったように思います。それとは逆に、私自身は私事で色々あったこともあって、過剰に低レベルな「童心」に陥っておりまして。そこで私は、誠心あふれる皆さんの醸成された雰囲気は何度も乱したように思います。恥ずべき愚行に入る穴もなく、申し訳ない気持ちでいっぱいです。「学ばせていただきます」「これからの学びを活かして変わった自分を見て下さい」などという言葉が通じるのは若者だけです。自分のように、学ぶだけで何らめぼしい実践もなく、言行不一致の人間はこの年齢にしてあまりに幼稚であると痛感いたします。次回以降、皆さんとともに活動させていただいてもよいのか、自分で身の処し方を決断しなければならないと感じておる次第です。

このような自分ではありませんが、「被災地に学ぶ会」にたびたび参加させていただいたことをいかに周囲に還元していくのか、今後とも探究し、試行錯誤で実践して参りたいと思います。

今回も参加させていただけた幸運を、お世話になった全ての方々に感謝させて下さい。

本当にありがとうございます。

★★大阪府20代 男性★★

私は、今回で三回目の参加になります。このような貴重な機会を三度も頂けたことに心から感謝しています。今回の参加にあたっては、三つのテーマをもって取り組ませていただきました。

一つ目は、「参加者の方々の後ろ姿から学ばせていただく」です。大谷先生はじめ素晴らしい方々ばかりで、多くの気付きをいただきました。自分のことより、人のために動かれる方、バスの運転手さんに心を配られる方、使わしていただいた場所を使う前より美しくと、朝から掃除をされる方、相手の気持ちになつて話を聞いてくださる方、いたる所で、「0から1」を実行されていました。自分にはない多くの気付きをいただきました。ありがとうございます。

二つ目は、「今回の活動で気づかせていただいたことを日頃の生活に生かす」ことです。気づか

せていただいて、少し変わった自分の心を大切に、少し行動をかえる、習慣をかえる、そして自分の人格を磨いて、日頃から人のために動ける自分になっていきたいと思えます。

三つめは、「そのために何をするか」です。今回お出会いさせていただいた素晴らしい方々の多くに共通する習慣の一つに「掃除」がありました。

掃除で、気づいたことが、日頃の生活の気づきに変わるといってお話も聞かせていただきました。言ったことと、することのブレを少なくし行動に移せるよう、毎日少しずつ掃除に取り組ませていただきます。今回の活動を通して、本当に多くの気付きをいただきました。

この会に参加できたことに本当に感謝しています。ありがとうございます。

★★大阪府10代 高校生★★

僕は高校一年です。今回の被災地に学ぶ会に参加させていただきました。被災地に学ぶ会には今回が二回目でした。

なぜ僕が参加させていただけたのか、それは金先生のおかげです。僕が小学校六年の時の担任の先生が金先生でした。それから何度かお会いする機会があり、夏休みの時に初めてこの会を知りま

した。そして夏休みに初めて被災地に行かせていただけることになりました。そして今回も金先生から電話がかかってきて、参加させていただきました。

僕は一回目も今回も知っている人がいなくて、正直凄くさみしかったです。しかし、僕のさみしさは一時的なものです。バスの中で被災した子たちが書いた作文をまとめた冊子を渡されました。内容はさまざまなものでした。お父さんが遺体で見つかった子、まだ身内の遺体が見つかっていない子、さまざまです。その子たちが感じているさみしさは、この先生きている間感じ続けていくと思います。そして今まで普通に出来ていたこと、何気ない会話、相談、これらも出来ません。僕たちが日頃何気なく、無意識にしている事がどれほど幸せなことなのかという事を作文と被災地の方々から感じました。

★★兵庫県40代 男性★★

日本を美しくする会のご尽力、世話役の先生方のご苦勞、神姫バス運転手さんの本気、牡鹿ボランティアセンターの皆さまのご協力、漁師さんの心意気、黄金神社の皆さまの心配り、家族の理解など、多くの支えにより、全てを整えていただきました。私は、からだひとつで参加させていた



き感謝の気持ちでいっぱいです。

参加されている皆さまの自己紹介や感想を聞かせていただき「はつと」する気づきがあります。家族、仲間といった身近な人の存在が当たり前になっていたり、や知らないうちに仕事が荒っぽくなっていく未熟な自分に気づきました。

今回、東京から「日本を美しくする会」の志の高い方々とご縁をいただきましたこと。阿部さん、千種さんの貴重なお話を聞け、多くを学ばせていただきましたことありがとうございます。

金華山には船で行かなくてはなりません。海が荒れていたのでは海上タクシーは出ないとのこと、鮎川の漁師さんが私たちを漁船で運んでくださりました。海の危険もご承知の上、相当の無理をされていたことを後から聞き胸が熱くなりました。そんな方々のおかげで無事に金華山に到着しました。

黄金神社周辺の清掃、貯水ダムの泥出し、山道の整備などグループに分かれて作業をさせていただきました。山の道は台風の被害で荒れていました。神社の生活用水として使う貯水ダムの大規模修理、荒れた道を整えるためには重機が入らなければ厳しいとのこと。そのための道を土嚢で作ることとなりました。

私たちのグループは、灯籠の修理に来られている福井県の上川さんのご指示のもと鉄パイプを

使って土嚢を積み重ねる基礎を作りました。最初、二本の鉄パイプを力任せに岩に突き刺しました。がなかなかうまく入りません。上川さんが真っ直ぐになるように何度も手を加えて、パイプの長さや角度を調整されたおかげで、土嚢を押さえる板がびったり合いました。力があるからといって、力任せでは上手くいかないことをここでも学びました。

貯水ダムに溜まった砂や砂利を大阪産業大学の野球部員のみなさんが土嚢に詰め、それがリリースされて運ばれてきました。一人ひとりが心を寄せて運ばれてきた土嚢を手にしたとき砂利の重みではなく、心のおもみを感じ、これなら重機を支えることができる、そんな気がしました。土嚢を手渡す時、力を抜かないで優しく渡してください。心配りや、土嚢の置き方をアドバイスしてくださる方、声を出して励まし合って作業は進みました。やがて心を寄せた土嚢が積み重ねられ一本の道になった時、ボランティアセンターの渡辺さんが「これなら重機が入る」と言われたのが忘れられません。

夜の懇親会の後、千種さんが、「心を取り出して磨くことはできないので、目の前にあるものを磨く、人は、いつも見ているものや接しているものに、心が似てくる」と言われました。作業においても道具の使い方、後始末、土嚢の運び方、全

てにおいて、荒々しくではなく丁寧にして、場を美しくすることが大切なんだと教えていただきました。

「命があれば何でもできるよ」「生きていることに感謝だね」と鮎川仮設商店街の魚屋のご主人が笑顔で話をしてくださりました。いただいたばかりです。また会える日を楽しみに、心よせて復興を願います。

仕事の代行をしてくださった藤木藍子さん、駅まで送り迎えてくれた妻に心から感謝いたします。 合掌

★★大阪府50代 男性★★

第十回「被災地に学ぶ会」に参加させていただきました。この「学ぶ会」が「日本を美しくする会」のご支援のもと、十回という回数を重ねていただいたこと、さらにこの先もご支援を賜っていることに厚く御礼申し上げます。

また、この会はたんに「ボランティア活動に行くのではなく、被災地という場をお借りして人としての生き方を学ぶ会」とあるとおりに、私自身この会に参加させていただく度に多くの学び、気づきをいただき、人間として成長させていただけること本当にありがたく思います。とりわけ教師という職に就いている私にとって、日頃自分自身

を厳しく見つめることもなく、また他の方々からの強い刺激を受けることのない日常にあって、この被災地に学ぶ会ほど自分の成長につながる場はないとさえ思っています。そして、この学ぶ会における私自身の成長が目前の生徒たちの成長につながるかと考えるとこの会に参加させていただけることの意義の大きさを感じます。

今回は、東京から参加された方々と大阪から参加された方々が交流できたことを非常にうれしく思います。その際、緊張する参加者を和ませるため大阪の若手四人の小学校の先生方がいろいろ手を尽くしていただいたことに感謝します。また、「力仕事は任せとおけ」と言わんばかりに率先して活動してくださった大産大野球部のみなさんに心から敬意を表します。さらに大産大野球部安本さんの体験発表は東京の人からも「かっこいい」と絶賛されるなど、思いの籠もった素晴らしいものだったと思います。宮崎先生の日頃の指導の賜物とあらためて敬意を表します。

さらに、体験発表の中でとりわけ私の心に響いたのが岡山から参加されていた沖久先生でした。まず、「感謝とは、都立第四商業高校の女子生徒がこの場に連れてきてくださった加藤先生に何も飾らずに、自然に『ありがとうございます』といった態度、姿勢、その思いをいうのだ」とのお話は心に染みこみました。震災後、「感謝」や

「絆」といった言葉が飛び交っていますが、誠意を感じられない、上辺だけの“つるんつるん”の「感謝」「絆」が多くなってきたような気がしていただけに、本当の感謝とはどういったものであるかを再確認させていただけたように思いました。

また、阿部様が鍵山先生の「ゼロから一への距離は、一から千までの距離より大きい」というお話をしてくださいましたが、それを見事に実践されていたのが沖久先生でした。朝四時半に起床され、登山道に登ったあと（恐らく参拝されていたのだと思いますが）、百段はあろうかと思われる石段を丁寧に上から下まで掃き清められていました。その沖久先生の思いが伝わってか、ラジオ体操が始まる頃には5〜60人くらいの人が箒をもって境内を所狭しと掃き清められていました。まさにお一人の「ゼロから一」の行動が「一から百」を生み出した瞬間だったように思いました。聞けば同じく岡山から参加されていた守屋先生が始められたトイレ掃除を多くの若い先生方が協力してなさっていたことも、まさにこの言葉の実践かと思えました。神社に到着した当初、どこかどんよりとした空気を感じたのですが、島を離れるときには爽やかな、清々しささえ感じたのは私だけではなかったのではないのでしょうか。

また、東京から来られた方々の「そこまでやる

か！」とまで思わせられる行動には頭が下がる思いがしました。具体的には、夕食で食べた弁当のゴミであるとか、お菓子のゴミなども徹底して分別され持つて帰ってくださいました。「あと始末」ほど厄介なものはありません。それをテキパキと徹底してされている姿に、掃除に学ぶ会のみなさんの生き様を見せていただいたように思います。そういえば、渡邊さんが指摘されておられました。が、「大谷先生は我歴を処理されるときに、腰を下ろし、袋から一つひとつ丁寧に取り出して分けておられた」という行為にも共通するものを感じます。「丁寧に生きる」とは、まさにこういう行動をいうのだと実感しました。明日から心していきたいと思えます。

帰りのバスの体験発表会はいろんな気づきをいただける場です。お一人おひとりのお話を聞かせていただくことよって、自分が気付かなかったことに気付かせていただいたり、気付いていながらも他の人の言葉を聞かせていただくことよってより具体的に頭の中で整理できたり、以前は気付いていたのに時間とともに忘れてしまつて、再度思い出させていただいたり、ちよつとしたことが私にとつての「心の財産」となり、それが増えていくことが嬉しいです。

参加された中学生、高校生そして大学生から60代、70代の方々まで、年齢、職種を問わず

べての方お一人おひとりすべてから気付かせていただき、学ばせていただいています。時にはみなさんの凄さ、素晴らしさに比較して、余りにも情けなくまたできていない自分を省みると、自分を否定したくなってきました。しかし、私が参加させていただけていることは決して無駄なことではなく、また、前回、「ガラス片一つ拾っただけでもここにきた意味はある」とおっしゃってくださった言葉を胸に、できていなかったことが一つでもできるように自分を鍛え、磨いていこうと思います。

あの大震災から早や一年が過ぎました。「復興」という言葉だけがどんどん歩き出しています。しかし、現地を訪れると倒壊した家屋がそのままであつたり、車や船もそのままになっているものもあります。まして現地の人たちの心は前へ進もうと思いつながらも、いろんな心の葛藤に苛まれておられることと思います。われわれが軽々しく「がんばってください」とはなかなか言い難い状況におられることと思います。それだけに私たちは心を寄せ合い、何かひとつでもお役に立てることをさせていただければと思います。また、大川小学校では命の大切さを思い、教師としていかにあるべきかを思い、生きたくても命を絶たれざるを得なかった子どもたち、先生たちの無念を思い、生かさせていただいているこの「いのち」を思い、

教師としての原点を真摯な気持ちを忘れず見つめていきたいと思えます。

私自身、この「被災地に学ぶ会」に参加させていただいて本当に貴重な体験をさせていただいています。冒頭にもいいましたが、この会が「日本を美しくする会」のご支援の賜物であること、また、牡鹿ボランティアセンターの方々のご配慮、さらに計画、実施するにあたってそのボランティアアセンタールの方々との入念な打ち合わせをしてくださっている大谷先生のお心遣い、さらに、われわれの無理を快く受け止め、どんな厳しい状況にあつても安全にそして快適にさらにわれわれが望む時間に合うように運転をしてくださっている神姫バスの方々に心より御礼申しあげます。ありがとうございます。

★★大阪府20代 男性★★

第十回被災地に学ぶ会に参加させていただきありがとうございます。今回で四回目の学ぶ会となりましたが、行かせていただくごとに「当たり前のごことに感謝することの大切さ」を感じさせられます。「ボランティア活動に行くのではなく、被災地という場をお借りして、人としての生き方を学ぶ会」とあるように、毎回自分のいたらなさに気づかされます。

今回は、牡鹿半島金華山での活動でした。活動前にボランティアセンターの方のお話をききました。「我々は修学旅行生ではなく、わきまえて行動してほしい」とのことでした。もちろんそんな気持ちでは行っていないが、現地の方々からすればそのようなうつることもあつて何もおかしくない話であると感じた。

金華山での初めの活動は、大きな石を山の上から下のほうに運ぶというものでした。足場をつくるために一輪車やかごに詰めて何度も往復をしました。足場が悪いために一輪車でもバランスがとりにくく、協力が必要であつた。そこでのみなさんの協力の仕方が、大変素晴らしかったです。誰もが自分のことではなく、相手のことを思いやつての行動が見られました。

活動の多くを占めたのは、貯水池にたまった土をかき出して土嚢に詰めて運ぶというものでした。ここが貯水池かと疑いたくなるような景色に唾然としました。土が3メートルほどたまり、貯水池の面影は全くありませんでした。初めは効率的に活動するために、バケツリレー方式で土嚢を運ぶことにしました。「丁寧」を意識していたはずなのに、いつしか作業効率のことばかりを考えている自分がいました。相手のことを思いやる気持ちが全くなかったのです。土嚢をうけとり、隣の方に渡すときに隣の方が取りやすい場所はど

の位置かを考えている余裕がありませんでした。土嚢の置き方一つでさえも、次のことを考えて置くことの大切さを学びました。土嚢を置いて道を作る場合は土嚢を持つ位置を下に置くと安定がします。活動をしながら、他を感じる力、丁寧に活動することについて深く考えさせられました。

夜の童心行では貴重な体験をさせていただきました。ご一緒させていただいた先生方にも感謝しています。また、阿部さんや千種さんの貴重な講和を聞くことができて、掃除に対する考え方が今までは大きく変わりました。とにかく動いて体で感じるために掃除に取り組みたいと感じました。体験発表では、各先生方や学生の方々が感じられたことを学びの共有ができて貴重な時間になりました。

被災地に行くということが非日常ではなく、日常と異ならずに学んだことを日々の生活の中で実践していくことが今の自分にできることだと考えている。自分の至らなさにたくさん出会わせていただき、それに気づかされるのが生き方を見直すきっかけになります。無理せずに、自分でできることをさせていただき「心をよせる」ということを日々意識して、一日一日を一生懸命生きていきたいと思います。

★大阪府30代 女性★

『第十回被災地に学ぶ会』では、みなさんと一泊過ごせたことで、とてもたくさん学びがありました。その学びはいろいろなご縁があったからです。

【金華山とのご縁】

私が初めてボランティアをさせていただいたのは、小淵浜での漁業支援でした。十月からワカメの養殖を始めるための準備のお手伝いをさせていただきました。その時にお世話になった表浜の漁師のみなさんと、ボランティアベース絆のみなさんで取り組まれている『金華山玉手箱』（ぜひ、検索してみてください）というものがあります。今、申し込みをしておいて、何年か先になるかはわからないけれど、表浜でとれた新鮮でおいしい魚介類を送っていただけという、とても楽しいしみなものです。今回「金華山」で活動することを知り、どうしても行きたかった理由の一つが、初めてのボランティアとのつながりを感じたことでした。

「金華山」は、出羽三山、恐山と並ぶ東奥の三大霊場で、全国からたくさんの参拝者がいらつしやる、地域の方々が大切にしてくられた場所でした。シカが大阪で見かける野良猫のように当たり前にいて、奈良公園のようでした。りっぱな桜の木が何本もあり、開花すると、すばらしいだろう

なあと想像できる場所がいくつもありました。なにより素敵だったのは、星座がわからないくらいの満天の星空です。寒さが心地よく思えるくらいとても澄んできれいな空でした。月が輝く時は海がともきれいだということも現地でも暮らす方に教えていただきました。今回のことがなければ一生、金華山へ来ることはなかったかもしれせん。これからは、あの星空と桜を見に、何回も訪れるだろうと思います。

【現地でも暮らす方とのご縁】

一番大きく心が動いたのは、牡鹿ボランティアセンターの方とお話をさせていただいたこと。童心行をして気持ちがあつた私にとって、厳しい顔つきで真摯にお話されたことは、胸につきささるようでした。お話の後には、とても質問が考えつかないくらい頭が真っ白になってしまいました。そのあとで、どうしてもお話をしたいことと質問があつてお帰りになる時を待つて、勇気を出して話しかけました。リーダーの方とのうちあわせが終わって疲れていらつしやるのに、「今いいですよ。話しましょうか。」とおっしゃってくださいました。

三月に自衛隊の方々が活動されている時から牡鹿へいらつしやつて、四月には仕事を辞めてボランティアを始められたその方と、半年もたつてからやつと現地へ来た私とでは心の寄せ方が、す

ごくすぐく違うのだなと、おめでたい私を情けなく感じました。お話中に地震がありました。その方はすぐに反応されていました。「二年たった今、最近になって、よくあのころのにおいや光景を思い出すんだよな。なんでかな。」と、つぶやいておられました。

お話を聞いて、とても心に残った言葉が二つあります。一つは、「死をいつでも隣り合わせに感じている。」ということでした。そして、人からもらった恩は次の誰かに返すというお考えの方だから、きつと、大震災の時に、すぐ！動けたのだろうなあと感じました。鍵山さんの「ゼロから一へ」の講話を拝読し、わたしのはじめの一步の鈍さを克服していきたいと感じていましたが、この方は、すつと、自然に踏み出していける方なのだなと思いました。まったく情報が届かなかった牡鹿半島を繋いでくださった、そういうフットワークをお持ちの方々には本当にかっこいいです。もう一つは、「遠くへ行くほど、足元を見るようになっていく。」という言葉です。が帰国にいるときは、日本のことを。宮城に来てからは、出身県のことを。牡鹿のことを考えてからは、地元のことを。考えるようになっていく、と話してくれました。自分を送り出してきて、待つてくれている仲間のことを笑顔で話され、夢や目標ではない、次にすることを楽しそうに話してください

ました。

もうお一方、とても嬉しい再会をできた方がいます。牡鹿のれん街でお店を出されている方なのですが、第九回の時から仲間の先生がずっと、連絡を取り合っていたらっしゃったおかげで、日曜日はお店がお休みなのに、合いに来てくださったのでした。そして、ご自身の被災された時のお話をたくさん話してくださいました。いままで二回お会いしているのに、そのお話を伺ったのは初めてでした。

二十六日の夜には、大阪で避難所リーダーをされていた方の当時のお話を拝聴させていただきました。本当に、みなさんが胸にしまっていたらっしゃるたくさんの方のつらく悲しい思い、大きな傷をお持ちなことを、忘れてはいけないのだと感じました。お話の後、店長さんは積んでいた荃ワカメを分けてくださり、なんと、その夜にバスのみなさんにも。と、道の駅まで持ってきてくださいました。連絡を取られていた先生も、店長さんのことをお父さんのよう。と話されていました。素敵な絆だなあと思いました。

わたしたちを受け入れてくださる、温かい心を持った現地の方にたくさんお会いできました。金華山と連れて行っていただいた漁船の方には、波がかかるからと、中へ入れていただき、夏か秋に魚を食べにおいでとおっしゃってくださいまし

た。帰りの海上タクシーの運転手さんには、乗せていただいた奇跡の船で、壁のような津波へ向かって沖へ沖へ避難されたお話をしてくださいました。タクシーから降りた港で、水揚げされたワカメの加工をされていた方々は、「食べえや。うまいんぞー」と茹でたてのわかめをくださいました。牡鹿のれん街のお店の方は、商品に、毎回、違う粗品をつけてくださいます。双子の湯でお会いしたお母さんは、涙を浮かべて住んでいた地区のお話をしてくださいました。みなさんが、一生懸命生きていらっしゃるお話を伺える、こんな貴重な経験をさせていただけること、本当に感謝しています。

#### 【東京チームとのご縁】

体験発表会では、高一の方のお話が印象的でした。出身中学校は違うのに、たまたまお二人とも、卒業遠足でデイズニールランドへ行かれていたことにまずびっくりしました。一人の子はやつと帰り着いたのが深夜で、もう一人の子は帰れなくなってしまうそうです。先生方や現地の方が連絡を取り合ってくれて、映画館で泊まらせていただきました。と、先生や添乗員さんのことをよく見て感謝されていることに感心しました。

日本を美しくする会の活動のこと、鍵山さんのお人柄のお話は、まずは自分が一人でもやること。続けること。をされていることのすごさを感じ

にもできないことをするのでなく、誰にでもできることをだれかだけでなく、自分がする」ということを本当にされている方の背中を、知らせていただきました。自分にできる少しずつでも、成長していきたいと思います。

### 【大阪チームの方とのご縁】

学びの報告会は二時過ぎまでかかりました。みなさんの気づきがすごくて、それをシェアしていただけることが、本当にすごくうれしいです。

金華山での活動で、重機が入れるよう、みなさんで土嚢袋で作り上げた道を、本当に喜びあふれるお顔で、自分の子どものお話を話すように教えてください。くださった方の笑顔がすごく素敵でした。

今回、弟と、大学時代の友達と一緒に参加させていただきました。その友達には、話すだけでは伝えられない部分を感じていただけていて、誘ってみて、行きたいと言ってもらえて、一緒に参加させていただけで、感謝の気持ちでいっぱいです。弟のことは、よく知っているつもりで、全然わかっていないです。金華山での朝の時間に、みなさんが清掃や様々なことをされている時、午前中の作業が金華山ではできなくなつた弟は、昨夜の反省を生かすために、土嚢袋の口部分が下になるようにひっくり返しに行っていました。それを教えてください。くださったのは、大阪チームの方です。私は、二日間違う活動をでき、昨日とは違う経験ができた

ことを良く思っていました。なんと視野がせま

い。  
私からすると、「どうやったら、そのように考えられ、生きられるだろう」と感じる先生が、参加されている方々を見ていて、「自分もあの方のように、師になりたい。」とおっしゃり、自分の師から言われた「今持っているもの、考えを全て手放せるか。そうしなければ、新しいものは入れられない。」と言われたことを苦しそうな表情で教えてくださったことが、とても胸にきました。

### 【心におちた言葉とのご縁】

今回の活動の中で私の背中を押してくれ、これからずつと心に留めておきたい言葉との出会いがありました。

一つ目は、『何もしないという失敗ほど大きな失敗はない』ということです。思っているも行動できなければ、考えはあつてもやっぱりそれは言い訳で、ようは、自分の勇気が足りないのだな。と思えました。今回は、失敗しても「今」しかない、勇気を出せたことで、ボランティアの方と悔いなくお話しすることができました。でも、それは、その方の厳しい表情を心をほぐしてください。仲間の方がいたからです。そのお礼を次の日に伝えていると、別の方が、「でも、きつと（私が）話してくれたおかげで、僕はその方と握手ができた」と言ってくれました。私は自分が受

けたことしか考えていませんでした。土嚢リレーや谷川小学校のお掃除と同じで、人とのつながりも受け取る、渡す、繋がりがあるのだなと感じました。

二つ目は、『ひとつ 拾えば ひとつだけ きれいになる』ということです。被災地に学ぶ会に数回参加させていただいて、初めてこの言葉が心に落ち着きました。時間にあせって、できるだけ多く…と考えるのでなく、自分の足元から、ひとつずつを自分のできることをしようと思えました。今までで一番心をこめてお手伝いできました。と思います。

すばらしい、チームの方々と、たくさんの方々のあたたかい想いに触れさせていただくことができ、とても感謝しています。日本を美しくする会のみなさま、本当にありがとうございます。

### ★大阪府20代 女子学生★

私が被災地に学ぶ会に参加させていただくのは、今回で三回目でした。私は今まで二回も被災地に学ぶ会で被災地に行かせていただきながら、被災地に学ぶ会で、学んだことを日常の生活で活かしていないのという思いがあり、私が被災地に行かせていただくことが申し訳なくなり、被

災地に学ぶ会に参加させていただくことを躊躇しておりました。バス代は日本を美しくする会の名のもとに集められた義援金から出していただいていますし、活動内容などは、大谷先生はじめ、先生方が細かい部分まで手配してくださっていますし、力があるわけでもありませんし、頭脳があるわけでもないですし、しかも被災地に行つてすぐは感動が胸を包み、すべてのことに感謝できるのに、すぐに忘れてしまい、いつもとかわらない生活を送ってしまったら…私が被災地に学ぶ会で被災地に行かせていただく意味はどこにあるのだろうかと考えていました。しかし、そうやって考えているときに、ふと「私は考えていてばかりで、何もしていないのではないか。今こそ、知覚動考（ともかくうごこう）を実践するときではないか。」といことが思い浮かびました。被災地に学ぶ会で、いつもキーワードとなっている言葉が、私の生活の中で少し活かされた瞬間でした。被災地での活動は、行けば誰かが道具を用意していただくさつていて、誰かが作業を引き継いでくださつていて、そして、私たちは、それに乗っかって、数時間という短い時間お手伝いさせていただく…こちらが本来は支える立場なのに、支えられるばかりだな、もらつてばかりだな、という思いでいっぱいになりました。私ができるだけのことはさせていただいて、少しでも何かを返して

いこうという気持ちで、黙々と作業をさせていたできました。そして、ここに書ききれないほどたくさんのお話を現地地暮らす方から、一緒に活動させていただいたみなさんから、千種さんのお話から、渡辺さんのお話から、大川小学校から感じ、学びました。しかし、この時点では、いつも被災地に行かせていただいているときと比べると変わりはなく、学んだことを日常に活かして生活することができるとかどうかという私の課題は残されたままで、心から今回被災地に学ぶ会に参加させていただいてよかったと言えないもやもやとした気持ちが残っていました。

しかし、帰ってきたその日に大阪産業大学で開かれた講演会に行かせていただいて、私の課題の答えが明らかになり、そしてとてもすっきりとした気持ちになりました。

震災後しばらくの間、避難所となっていた鹿妻小学校の代表を務めていらつしやつた浅野さんのお話を聞きました。浅野さんがおつしやつていたお話の中で、一番印象に残った言葉で、「変わらない人は変わらない」という言葉がありました。私は現地にずっと入り込んで生活している人にならなければ、ほんの数回しか行っていないのに、被災地のことをわかつたつもりになつていて、被災地の方はみんなつらいけれども、大変だけれどもすべての方が復興に向けて頑張つていらつしや

るのだと思ひ込んでいました。しかし、実際は震災以前から働かなかつた人は働かないし、震災以前から頑張つて働いていた人は、こんな大変な震災が起つても、必死になつて働こうとするのだ、変わらない人は変わらない、日常の生活がすべてであるということ、実際に被災した方がおつしやつていることに衝撃を受けました。力強くそのようにおつしやつている浅野さんを見て、浅野さんがおつしやつていることは本当にそうなのかすごくすっきりしました。

何か特別なことがおこつたから、人間は変わるのではなく、特別なことが起つた時に、普段どのような生活をしているかがより鮮明になるだけのことなのだということに気が付かされた瞬間、すべてのことがクリアになりました。

私が、被災地で学んだことを日常生活で活かすことができているかという思いは、特別なことをして、自分の心持ちが変われば、自分の行動も変わるという思い込みから来ているのだということとがわかりました。被災地に行かせていただくというこんなに大変特別なことをしてまで、変わらない自分に嘆いてばかりいることは間違いないこと、このことに気が付かされました。学んだことを活かせるか活かさないかは、日常の生活で、どんなことを心がけて、何を具体的に覚えていこう

として生活するのかということにかかっているのだということを教えられました。

今、被災地で一番必要となっている支援は、被災地にお金を落とし、被災地で何とか働いて、生活しようとしている方々を応援することであるということは、普段から頑張っている人は、いざという時に生き抜く力をもっているし、助けてくれる人もいるということ象徴していると思います。子どもたちに身につけてほしいことは、ロープワークなどのサバイバルな力だということや、早寝早起きなどの基本的な生活習慣だということも、大きなことが起こってからはなく、普段からどんな生活をしているかが生き抜く力に変わってくるということを言っていると思います。掃除は雨天決行というお話も、どんな状況でも普段からしていることを発揮する力を身につけるといふことだと思います。というように被災地に行かせていただいて学ばせていただいたことがつながって見えてきました。

きちんと手入れするというのを気をつけて生活していこうということを決めました。人間は大きなことがあったからといって変わるわけではない動物であるので、まだまだ完璧にできないのは、ある意味仕方ないことだと心構えは、変化に挑戦するために必要なのだと捉えつつ、しかし、小さなことを粗末にせず、少しの変化にも喜びをもって継続していきたいと思えます。私にとって、これからの行動が、被災地に行かせていただけてよかったと心から言えるかどうかの本番になってくると思えます。

最後になりましたが、今回も素晴らしい学びを与えてくださった、被災地に学ぶ会や講演会に係る皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

★岡山県20代 男性★

二十七日午前三時。やつとのことで岡山県の自宅に到着した。すると身重の妻が、私の帰りを出迎えてくれた。妻の顔を見たその瞬間のうれしき朝、学校へ行くために準備をしていると2歳半になる息子が起きてきた。「おとうさん、おかえりー」と言って寄ってきてくれ抱っこ。息子はとても温かった。息子を抱ける喜びを噛みしめた。私が被災地に学ぶ会に行っている間も私を心配してくれ、何度もメールをくれた家族。家族の存在の大きさや大切さ、有難さを改めて感じさせて頂くことができた。一方で、自らの支えとなってくれている家族を失ったらと思うと不安になった。怖くて少し震えた。被災地の方々は大切な家族を失い、もつともつと不安で辛い想いをされているのだと思うと涙が出た。

今回が初めての参加で、行く前は知らない人の中に飛び込んでいく不安ばかり。しかし、数々の素晴らしい出逢いによってそんな不安はいっしょかどこかへ吹っ飛んで行ってしまっていた。大谷先生を中心とする被災地に学ぼうとする高い志をもった方々は、本当に心温かく、素直で、受け入れる大きな器をもっておられた。高校生・大学生も自分の考えをきちんともっていて、すごかった。共に学ぶことができた幸せを今また噛みしめている。

行く前は、自分にできることをやってこようと意気込んでいた反面、被災地の状況を目の当たりにして自分がどうなるのか心配でもあった。

一日目。石巻に入り、初めは特に変わった様子もなく、ここで地震が起こったのかなと思うくらい。しかし、海側へ少し行くと別世界が広がっていた。ただただ広がる震災跡地、骨組みと壊れた壁が残っているガソリンスタンドやパチンコ屋、何百台と積み重ねられた自動車、瓦礫で作られ



た山、道路の真ん中に転がっている巨大なクジラの缶詰、荒れ果てた姿の門脇小学校：一年が経っても震災の爪痕は全く消えていなかった。うわぁーと思いつながら、意外と冷静に見ている自分もいた。牡鹿ボランティアセンターで東京組と合流し、船までの時間を待った。その際に、大谷先生からボランティアセンターに遺体安置所があったと聞き、ここで惨劇が起きたのだと痛感させられた。少し怖くもなかった。船に乗り、金華山へ。

金華山では、震災後の台風による土砂崩れで埋まってしまった貯水池の土砂を土嚢に詰め、重機が入れるように道をつくる作業。ここで、「瓦礫を丁寧 to 扱う」という大きな学びを得た。土嚢を両手で大切に運び、置く向きを考え、最後には両手でそつと手を添えて心を込めるといふところまで心を配っておられた方々がおられた。自分はそのままで心を配る事はできず、力任せに作業をこなしてしまった。

夜は東京組との交流会。童心行で心が全開になり、グループワークで熱く語った。代表して発表をして下さった方々は、どの方も心にどーんと響くお話。思わず涙が出た。千種さん、阿部さんのお話が聞けて幸せだった。金華山の夜空は、吸い込まれるように美しかった。

二日目。五時半に起き、前日から実行しようとして決めていたトイレ掃除を実行。自分にできること

はやっぱりこれかなと思つて掃除をしていると、光岡先生が来られ、お誘いすると「させてください！」。その言葉に感動！ともうれしかった。この後来られたのが千種さん。何か運命的なものを感じた。千種さんも手伝つてくださり、人がどんどんと増え、金華山での便教会になった。バケツに水を汲むために外へ出ると、外は外でたくさんの方がお掃除をされていた。沖久先生が始められたところから広がったようだ。誰に指示されることもなく、自らが気付いて即行。日頃からやっているからできるのだとまた学ばせて頂いた。客観的に見ると異様な集団なのかもしれない……。

予定より早めに牡鹿半島へ船で帰った。その船の船長さんは大きな津波を船で乗り越え、今、命があると話をして下さった。「その時の恐怖感言葉では表せない」と言っておられたのがとても印象に残っている。津波を乗り切った船に乗せていただいたことは貴重な経験となった。

本土に着いてからお昼過ぎまで作業。ここでもまた「瓦礫を丁寧 to 扱う」大切さを大谷先生から学んだ。瓦礫を置くとき、膝をついて両手でそつと置かれていたようだ。瓦礫ではなく、それは「思いの詰まった物」「生きてきた証・歴史」である。自分はそのままでできていなかった。牡鹿仮設商店街でおいしいラーメンを食べ、貴重なお話も聞きながら買い物。

牡鹿半島を後にして、最終目的地大川小学校へ。大谷先生のお話で心が引き締められ、バスから降りた。大谷先生がここは無言でと言われていたが、言葉も出なかった。それくらい衝撃を受けた。亡くなられた皆さまのご冥福と早くあと4名の方が見つければなとただただ祈ることしかできなかった。大川小学校へ行くことについて賛否両論あるだろうが、「瓦礫を丁寧 to 扱う」と思い実行できる人たちだからこそ行くべきで、行くと、きつと喜んでくださっていると信じている。帰りの道の駅では二日ぶりのお風呂。とても気持ちよく、幸せだった。

実際に被災地へ行って経験したこと、被災地に学ぶ会 in 大阪でお聞きしたことから学んだことが三つある。

一つ目は、「人は生かされている」ということ。私たちは生きているのではなく、生かされている。生かされていることに感謝である。

二つ目は、「この震災を経てさえも人は変わらない」ということ。結局、まさかのことが起こっても人は日頃の行いが出る。家族で食事をしない家庭は、避難所でもバラバラで食事をすると浅野さんが言っておられた。まさかの時にも幸せであるためには、今どう生きているかが大切なのだと思う。

三つ目は、「心を寄せること」。今回の大震災

を忘れず、遠い岡山でも被災地の復興を願っているも気にかけていることが大事。これは誰にでもできる復興支援だ。

四日間の経験や学びを今度は私が周りの人に伝えていこうと思う。一人でも多くの方に：伝えることが行った者の使命であると思っている。

最後になりましたが、私が被災地に行くことができ、多くの学びを得ることができたことを支えてくださったすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございます。そして、今回の東日本大震災で被災された方々のご冥福を心からお祈りし、一日も早い復興を願っております。

### ★大阪府10代 男子学生★

TVなどの報道とは違って、震災から一年がたった今も被災地の復興はまだまだ進んでいなくてガレキも残ったままだが、被災地の人たちは前向きに復興へと頑張っている。

これが、実際に訪れるまで勝手に自分の中でイメージしていた被災地の現状でした。しかし今回、バスで震災後初めて東北に入り仙台や石巻を見ていると、最初はガレキは見当たらないし、ところどころブルーシートのかかった家や重機が見えるだけで、あれ？被災地っていう割には全然平気そうやん。と思っていました。石巻を進むと、

まるで、ここから津波の被害にあった地域。と線引きされているように、人気はなく、窓や壁がなく中がガレキでいっぱいになっている家や、明らかにもともとはそこになかったであろう大きな看板、山のように積み上げられた車、時計の位置まで校舎の色が変わり建物の半分は黒く焼けた小学校、建物がすべて流されて海辺から山まで広大な更地が広がっているような街の景色を見るとき、言葉が見つかりませんでした。確かに報道通り、大部分のガレキは撤去されましたが、それが逆に、それまでであった生活の跡をすべて洗い流してしまったようで、衝撃と虚しさで儚さの混ざったようなよくわからない感情でいっぱいになり、しばらくは動けませんでした。

しかしその後、さらに驚いたのが牡鹿VCに到着したときボランティアセンターの人たちが、「おはようございます！」と笑顔で挨拶して出迎えてくれたことでした。その中には、少なからず実際に被災した方もいたでしょう。そんな、以前とは変わり果ててしまった現地で一年間過ごされて、遠く大阪から来た団体に元気に挨拶。もし僕が逆の立場だったら、到底そんなことはできないと思ひ、現地の人の強さを感じました。しかし、現地で一年間、復興のお手伝いをしてこられた渡辺さんのお話を伺った際には、メディアでは報じられていなかった、略奪や暴行が起こっていたこ

とを知り、そういつた出来事が起こっていたことに対してではなく、現地の人たちはみんな強いんだ、日本は頑張っているんだなんて思っていた自分の考えがいかに甘かったかに対して腹が立ちました。考えてみれば当然だったんです。みんながみんな強いわけではないんです。今回の震災で家を失った方、大切な家族を失った方、大好きな恋人や友達を失った方、思い出を失った方、すべてを失った方もいたと思います。それでも前を向こうと頑張っている人たちに対して、実際に現地で活動させていただいた二日間、自分は何ができたのかを帰りのバスで考えていると、自分がガレキを処理したことさえも誰かの思い出の詰まった物に何もできていなかったように思えて、結局被災した方々に何もできていなかったように思えて自分の無力さに情けなくて涙が出ました。

そして、大阪に帰ってきて数日がたちました。周りの人たちに被災地に行ってきたという話をすると、まず始めに「えらいなあ」と言っていたのですが、その言葉を聞くたびに複雑な気持ちになります。また何度か被災地に行きかせてもらいたいと思っていたのですが、正直、本当に自分が現地に行つて役に立てるのだろうかとかとわからなくなり、自分が行くよりもほかの人が行ったほうがいいのではないかと思うこともありました。そんなときに、大阪産業大学で行われた被災地に

学ぶ会 in 大阪の中で金先生がおっしゃった、「知覚動考」（ともかくうごこう）という言葉が心に響きました。じぶんのしたことが本当に誰かの役にたっているかはわかりませんが、それが正しいのかも今はわかりません。じゃあ、わからないなら考える前に動いてみようと思ひ、まずは身近な人たちに感謝しようと、毎日何らかの形で親にありがとうと言葉にすることにしました。

自分の無力さ、周りの人たちの大切さ、平凡のありがたさを気づかせてもらったのも、この機会を用意してくださった大谷先生、準備や世話をしていたいただいた関係者の方々、今回一緒に参加させてもらった方々、現地の方々のおかげだと思ひます。皆さん本当にありがとうございました。

### ★★大阪府20代 男子学生★★

今回、石巻ボランティアに参加させていただいて4回目になります。初めて参加させていただいた9月から半年ほどが経ちましたが、正直まだまだたくさんの方の力が必要だと感じました。この事をもっと多くの人たちに伝えたいと思ひます。私には就職活動で行かせていただく機会が少なくなると思ひますが必ずもう一度、石巻の地に足を踏み入れ復興の手助けをしたいと思ひます。今回は金華山で活動をさせてい

ただきました。金華山の貯水槽に土砂が流れ込んでいたのでその土砂を土嚢袋に詰め込み、その土嚢袋を積み重ね道を作る作業をしました。最初は単なる土砂を運んでいるという意識で淡々と作業をしていたのですが、被災地に学ぶ会の先生方のお言葉で「単なる土砂でなく現地の人たちが踏みしめてきた想いのつまった土砂なんだ」と気づかせていただくことができました。それからは土砂の入った土嚢袋を両手を使い現地の人たちの想いを感じながら運ばせていただくことができました。すべての物には、単なる物ということだけでなく想いのつまった物ということを感じることができた一日でした。

金華山での作業を終え海上タクシーで送っていただいているときにアツシさんという人に逢いました。その方は震災前までは漁師をされておりました。震災当日は船で沖に出てなんとか命が助かったそうです。しかし家に帰ってみると家は消え去っていました。震災から2週間は仕事などやりたいたことができずお風呂にも入れなかったと聞きました。アツシさんがたくさんの方の事実を教えてくださいたい。アツシさんの中に、「人間生きていればなんだからできる」という言葉に私は涙が出るほど感動しました。こんなに大きな災害にあわされたのになんて前向きなんだと思ひ日頃、私の思っている悩みなどとても小さいことと感ぜまし

た。ボランティアとして被災地の役に立ちたいと思ひ参加させていただいているのに毎回、学ばせていただいているばかりです。感謝でいっぱいです。

大阪に帰り大阪産業大学の教室で活動報告の講演会を開かせていただきました。私は壇上に上がりディスカッションに参加させていただいたのですが考えていることを言葉にすることが下手な私は役不足で情けなく感じました。しかし一つだけ伝えたかったアツシさんの言葉を伝えられたことだけでも私の中の義務が果たされたのではないかと思ひます。講演会終了後、一人暮らしの家に帰り、初めて石巻にボランティアにいったときから今回までの活動を一人で振り返っていました。やはり学ばせていただく事ばかりでした。しかしこの学ばせていただいたことを生かすか殺すかも自分次第だと思ひます。今後の生活で被災地での学びを活かし一日、一分、一秒を大切に生きて行こうと思ひました。私もまだまだ未熟者ですが高みを目指し頑張りたいと思ひます。人間生きていればなんだからできるのですから！有難うございました。

★大阪府20代 男子学生★

始めに、四日間でしたが貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございます。私は今回で三回目の被災者に学ぶ会への参加となりました。恒例のバス内での自己紹介タイムでは、参加者の方々がそれぞれの想いや、意気込みをお話して下さりました。毎度、それを聞くだけですごい学びになります。お話しして下さる方ももちろんですが、お話しを聞く姿勢もきっちりしているなど感じました。聞く姿勢が良いからあれだけのことが話せるのだなということを変えて気づかされました。

現地へ着いたのは8時頃で、ほぼ時間通りに到着しました。悪天候の中、雪も心配されましたが、これも運転手さんの素晴らしい運転と私達への心遣いがこのような結果になったのだと思います。本当に感謝です。

牡鹿半島から船を出して頂き、金華山へ向かいました。金華山はもとも観光地でもあったそうです。参拝に来る方々は一泊して帰るとい話しも聞かせて頂きました。辺りを見渡すと山が崩れたり、石碑や木が倒れたりという光景が広がっていました。震災当時は山の半分ぐらいまで津波が来たそうです。想像しただけで恐ろしくなります。いつも思うことなのですが、私は震災後の石巻しか見たことがないため、すごく悲しい気持ちにな

ります。できることなら震災前の綺麗な町、そして金華山を見たいという思いが強くなり、来ました。金華山での作業は、貯水場に貯まった土を土嚢袋に入れるのと、それを運び、重機が通れる道作りを主にさせていただきました。野球部は力仕事を任せて頂き、土嚢を運んだり、下に下ろしたり、作業を繰り返し行いました。途中重さのあまり、疲れてしまい土嚢を雑に扱っている自分がいきました。瓦礫ではないし土嚢袋だからいいかという気持ちがありました。そのことから野球部が先生方に迷惑をかけたこともあり、先生方を見ると、相手の持ちやすいように運んでいる姿が見られました。この気遣いにさすがだなと思いましたし、先生方からするとこんなことは当たり前なのだなと感じました。私達野球部もそれに気づかせて頂き、意識して運ぶことができました。まだまだ気づきが遅いところに甘さを感じました。作業を終えて見てみると、わずかではありませんが道が出来ていました。それを見てすごい達成感もありましたが、逆にもつとできたという物足りなさも感じました。

夜には東京チームと一緒にグループディスカッションや体験発表をさせていただきました。東京チームの想いもたくさん聞かせていただきました。その中でも特に東京の日本を美しくする会、千種さんのお話が印象に残っています。何故トイ

レ掃除をするのかなどのお話を聞かせて頂き、すごい学びになりました。心を浄化するために掃除があるということ、綺麗な環境が周りを変えることを気づかせて頂きました。朝起きてトイレに向かうと、千種さんを先頭にトイレ掃除をされている数名の先生方がいました。外を見ると掃き掃除をしている方々もたくさんおられました。本当に行動が早く、その実践力には驚かされました。私自身その場で自分の実践力のなさに反省もしました。お話が心に響いたならすぐさま実践するということを背中教えて頂きました。

船の関係で急遽牡鹿半島に戻ることになり、お昼まで埼玉チームと一緒作業させていただきました。もともと住宅地だったので、遺品がたくさんありました。前日の反省を生かし丁寧に扱おうと決めていたので両手を添えて運ばせて頂きました。一つ拾えば一つ綺麗になるという言葉が実践することにより、感じる事ができました。作業を終えた後、商店街へ行き昼食を取りました。私は、お寿司屋さんで復興ちらしを頂きました。とても美味しく作って頂いたおじさん、おばさんの想いを感じられました。お店を出る時、本当に笑顔でありがとうと言って下さった姿がとても印象に残っています。私達がお金を使うことにより東北の経済復興に少しでも役に立っていると思うと、すごくうれしい気持ちになりました。

帰りは、道の駅に寄りお風呂と夕食済ませ大阪へと向かいました。今回は四日間、たくさんのおつきや学びを頂きました。震災から一年たった今でも、復興にはまだまだ遠いものがあります。しかし、少しずつあります。復興に向かって進んでいるのも事実です。今こそ日本中が力を合わせる時ではないかということを感じました。私自身も、微力ではありますが復興のために出来ることを実践していきます。そして震災前より綺麗な東北の地をいつか見れることを願いたいと思います。

最後に、被災地に学ぶ会に参加させていただきお世話になった先生方、バスの運転手さん、そしていつも快く迎え入れて下さる現地の方々。本当に感謝しています。ありがとうございました。

★★大阪府20代 男子学生★★

今回石巻のボランティアに行かせていただき、自分にとってこの四日間は本当に色々考えさせられ、復興地から学ばせていただいたことがたくさんあります。

一つは、思いやりをつなぐ事の大切さです。作業一日目に台風の影響で泥が溢れていた場所での作業でした。一人一人が自分たちの役割を持ち、誰一人突っ立っているものはいません。その中で

も土嚢袋に泥を詰め、その土嚢袋をバケツリレーの様に運ぶ作業があり、一人一人がその土嚢袋をただ次の人に回すのではなく思いやりをもって最後の人まで繋いでいるのを自分自身肌をもって感じる事ができ、本当に成長させていただいた時間でした。

そして二つ目は、行動力の早さです。作業一日目が終わり、次の朝六時三十分起床だったので、朝五時に起き、トイレの掃除や外の掃き掃除などをやっておられ、その方々の行動力の凄さにあつげをとられました。自分もこの方たちの行動をみて掃除を始めたのですが、それでは遅いように感じましたし、自分の行動力のなさに情けなさすら感じました。本当にいい瞬間を見させていただきました。

そして最後に三つ目は、二日目の朝金華山から帰る船をだしてもらい、その24才の船の運転手のお話しがとても印象に残っています。その方は家も津波で流され、そこからお風呂も二週間入れず、すごい思いをしているにも関わらず、こういって話をしてくれました。「被災した方に反感かうかもしれませんが24才ながら成長させてください。なぜなら自分の船を津波から守ることができた。本当に大人になれた。」とおっしゃり、自分はこの話を聞いて本当に強い方で自分も同性の男ながら間近で男らしさを感じ

ましたし、自分も本当にこの男性のような男になりたいと感じました。守らなければならない物や人に対する心の持ち方が本当に変わりました。自分は今回このような会に参加させていただき、数えられないほど学ばせていただきましたし、日々勉強だと思つづく考えさせられました。またこのような会があるときは積極的に参加したいと思います。ありがとうございました。

★★大阪府10代 男子学生★★

自分は二十三日から二十六日にかけて被災地に学ぶ会に参加させていただきました。初めて被災地の石巻市に来させていただきましたのですが震災から一年たった今でも家などは無くてすごく心が痛くなりました。テレビなどで見るのとは全く違って鳥肌が立ちました。肌で感じるというのはこういう事を言うんだと思いました。

一日目は金華山の土嚢を運ぶ作業で土嚢袋を投げたりして作業してたんですが、作業が終わっているいろんな話を聞かせていただいてあそこの土はただの土ではなくてこの島の人達やいろんな人達が今まで踏んできた思いのこもった土だとおっしゃっていました。そんな事も考えずにただひたすら土を投げていて何をここに来させていただいたのかといのをもう一度考え直

しました。

東京の人達とのグループディスカッションで大人の人達と話ができる機会がたくさんありいろんな人達の話聞かせていただいて、「日本を美しくする会」の千種さんという方が、掃除をするのに大事な事は「準備」と「片付け」、「道具を大事にする事」だとおっしゃっていました。これは野球にも繋がる事で、他にも「凡事徹底」というのを言っていました。それは平凡な事こそ当たり前前にやるという事で、誰にでもできる事を誰よりもできるようにするという事をおっしゃっていました。後継続する事の大切さや、自分が動かない事には誰も動かないなど、すごく深い話で全部野球に生きてくる話だと思いました。

最終日には大川小学校に行かせもらい、遺族の方々などの思いを先生に聞かしていただき、もし自分が同じような被害にあっていたらと考えると他人事ではないと思いました。まだまだ被災されて困ってる人がいると思うので少しでも何かしたいとおもえるようになりました。

今回石巻に行かせていただいて本当にいろいろな事を学ばせていただいて、自分の成長に繋がったと思います。これを期に自分の行動も変えて行こうと思いました。また機会があれば参加させていただきます。ありがとうございました。

★大阪府20代 男子学生★

自分は二十三日から石巻のボランティアに参加させていただきました。そして今日、講演会に参加させていただきました。自分自身ボランティアに参加させていただくのは二回目ですが今回は金華山の貯蔵庫の砂の撤去をさせていただきました。大阪チームの他に東京と埼玉からもボランティア団体が来て一緒に協力して作業をしました。自分たち野球部は力仕事を任せられ黙々と作業をしました。ボランティアをしている中で自分の頭の中ではただの土嚢袋としか考えていなくて扱いは方が少し雑だったんだなと言うことをグループワークの中でわかられました。丁寧に作業をする心を忘れて効率ばかりを意識してしまっていました。

たくさんの大人方の話を聞いてこの人たちは、ボランティアをしてあげてる。という考えではなく、ボランティアを通じて、学ばせていただいている。と言う意識を持っておられました。やはり自己満足では意味がないですし、ホントに被災地の方々に心から感謝していただければじめて今回のボランティアが成功なんだとおもいます。

自分自身今回のボランティアで大川小学校に行かせていただいた事が一番印象に残っています。大川小学校では生徒の七割が津波で命を落と

してしまったそうです。約十年しか生きていない未来あるはずの小学生の気持ち考えてもわかってあげられないかもしれませんが、未来ある自分たちが未来を奪われた子たちの分まで責任をもつて生きないといけないなと思いました。

そして石巻から帰ってきて、夕方から講演会に参加させていただきました。安本さんと三宅さんをはじめ、大阪教育大学の方と京都大学の方の話聞いて、どのような志でボランティアに参加されたのか勉強になりました。浅野さんの炊き出しの話しや津波が来たときの避難の話しを実際に体験された方から聞かせていただけですごくその時の恐怖感が伝わってきました。ホントに今回のボランティアに参加させていただけて良かったです。ありがとうございました。

★大阪府10代 男子学生★

二十三日から二十六日まで自分は宮城県の石巻市へのボランティアに参加させていただきました。震災から一年が経って、今の被災地の現状はどうかと言うのも実際に見たいと思ったので自ら参加を希望しました。

まず現地に着いて初めに思ったことは、一年という年月が経過してもまだ復興が全くいき届い

てない場所があるのかと言うことでした。今回の主な活動は金華山と言う所の貯水槽に貯まった土砂を袋に詰めて出していくことでした。この作業で野球部は主に力仕事を任せられました。作業の前のお話で先生から、一つ一つのを丁寧に取り扱うことが大切と言うことを教わりました。作業の初めの方は言われた事を意識して丁寧に作業していたのですが、作業が進んでいくにつれてもっと早く効率よくやろうとしてものを雑に扱っていたように思い、もつと丁寧に作業するべきだったと感じました。

一日目の作業が終わった夜に交流会がありました。そこで関東から来ていたグループの人達とも色々な話をする事ができました。そこで印象に残った話は関東から来ていた人の話です。その人は三月十一日の地震があった日は交通がストップして帰宅困難者となっていたそうです。まだ三月の寒い季節に家に帰れずに困っていたときにある店に行列が出来ていたのを見たそうです。なにがあるのかと見てみると、その店はスターバックスで外にいる人達にホットコーヒーを無料で提供していたとの事です。その話を聞いて自分は、とても素晴らしいことだと思いました。非常事態で困っている人がいれば店の利益にならないくてもそういう事ができるのは本当にいいことだと思いました。今回のボランティアを通して、

いま当たり前にできている事が当たり前ではないと言うことを改めて感じました。自分が学校に通えて野球ができる事に感謝しなければいけません。

そして最後に、いま自分は生きています。生きていけばどんな事でもできる可能性があります。自分が生かされている事にも感謝しなければいけません。来月のボランティアが金華山で作業ができる最後のチャンスと言う事を先生が仰られました。今回のボランティアで二日目は金華山での作業ができなかったため、来月のボランティアにも是非参加させていただきたいと思いました。ありがとうございます。

★★大阪府20代 男子学生★★

ボランティア活動で被災地で活動させてもらって、今の状況や話を聞いたりしてすごく感じるものがありました。上がった土を土嚢袋につめる作業や掃除などの作業をしました。作業中や行きバスや帰りのバスでも思っていたのですが、こーうやってボランティア活動ができた、食べるものがあつたり、住む所があつたり、話せる家族がいたり、当たり前なことがどれだけ幸せかというかを痛感しました。初めて活動させてもらって感じるものがたくさんありました。また、倉庫など

に大量の写真などがあり、それを見てすごく心が苦しくなりました。両親も亡くなってしまった人もいますし、それを思ったら日頃自分は両親に「ありがとう」とか伝えてないのですっかり伝えて、当たり前に生活できていることに感謝していきたいです。

夕方から浅野さんの講演会に参加させて頂き、やっぱり実際に被災にあわれた方の話を聞くと改めて被災への恐怖が伝わってきました。またアメフト部の方の話を聞いて、なにか力になりたいという気持ちがありながら、一つ一つの作業が雑になってしまい、今回自分もボランティア活動させてもらって同じように雑になってしまった部分もありました。がれき一つにしても色んな思いが詰まっていますし、雑になってしまったことが自分の中ですごく大きな心残りです。普段の生活面でも一つ一つの行動が雑にならないように心がけていきたいです。また、このような講演会を開いて下さった関係者の方々本当にありがとうございます。また機会があれば復興地でのボランティア活動に参加したいと思います。ありがとうございました。

★大阪府20代 男子学生★

私は二十三日〜二十六日まで一泊四日で宮城  
県石巻市にボランティア活動に参加させてもら  
いました。バスで十三時間かけ半年ぶりの石巻へ  
行き最初に感じたことは、“あまり変わっていない”  
ということでした。パツと見が変わったなと  
思った場所は門脇小学校の横に山積みになった  
ゴミが無くなっていくくらいでした。しかし、  
このことについては私もある程度の予想はでき  
ていました。

そして、今回は初めて金華山という離島でのボ  
ランティア活動でした。金華山までは地元の方に  
船を出していただいたおかげで行くことができ  
ました。金華山での作業は東京の方たちと一緒に  
取り組みました。作業の内容は貯水池の泥だし、  
地面が崩れていたので土嚢袋で道の基礎を作る  
というものでした。大人数だけあって作業は順調  
にいきました。しかし、その日だけでは全て終わ  
らすことはできませんでした。まだ復興するには  
大量の時間が必要だと思います。そして、このま  
ま復興作業が続いたとしても一〇〇%の形で復  
興は無理だと思います。もし、これを見て一〇  
〇%復興できると思った人はただの“きれいごと”  
だと思います。しかし、できるだけ一〇〇%に近  
い形で復興するということはできると思います。  
私はできるだけ一〇〇%に近い復興ができるよ

うに微力ながら、これからもボランティアという  
形で協力したいです。

★大阪府20代 女子学生★

先月に引き続き、今月も参加させていただきあ  
りがとうございました。毎回、多くのキャンセル  
待ちの方がいらつしやる中、五回も参加させてい  
ただき感謝しています。

今回は、久々の宿泊、天気が悪ければ金華山へ  
は渡れない、作業後はお風呂に入れないなど、行  
く前は少し不安もありました。しかし、尼崎へ到  
着すると、顔なじみの方々と再会し、挨拶を交わ  
し、受付を済ませる頃には不安は消えていきまし  
た。

バスに乗ってからは、恒例イベントである自己  
紹介タイムです。みなさん、それぞれの思いや考  
え、参加の動機などを話したいだけ無制限に話し  
ます。教師・一般の方・大学生・高校生年齢は様々  
ですが、どの年代の方からも毎回学ぶことが多い  
あります。

土曜日、朝起きて無事金華山へ行けることを知  
り、一同で喜びました。牡鹿から船に乗り十五分  
ほどで金華山に到着しました。到着すると、既に、  
東京チームが作業されていました。午前中は、足  
場を作るために、ひたすら石をバケツに入れ運び

ました。午後からは、一番山奥の方で、東京チー  
ムの方々と土嚢袋に土を入れる作業を永遠と行  
いました。土嚢袋を開く人、土を入れる人、紐を  
縛る人、運ぶ人、下へ投げる力仕事をする人、流  
れ作業でもっと下まで運ぶ人というように、大阪  
チームと東京チームが協力し、自分の役割を一生  
懸命果たし、青空の下気持ちよく作業することが  
できました。今日出会った見ず知らずの人でも同  
じ思いを持つことで、楽しく声をかけながら、会  
話しながら、働くことができました。

作業後は、たくさんの差し入れをいただいたり、  
夕食は「くじらライス」をいただきました。タク  
ライスのお肉が鯨の肉であり少し驚きましたが、  
おいしかったです。夜は、3〜4時間童心行や講  
演会がありました。大人たちの本気のじゃんけん  
は子どもたちに負けないぐらいの気合と勝った  
ときの心の底からの喜び、おじ様方の跳んで喜ぶ  
姿は決して忘れることはできません。(笑)本当  
に楽しい時間でした。

日曜日は、予定が少し変更になり、牡鹿へ戻っ  
ての作業となりました。埼玉チームに合流させて  
いただき、仮設住宅から見える元々家があった場  
所を少しでもきれいにさせていたたくという作  
業でした。一見、きれいに見えるが、掘れば掘る  
ほど、土の中から、衣服・食器・お酒・写真など  
が出てきて、「ここに住んでいた人は無事に生き



ているのかな」と思いながら、一つ一つ丁寧に拾い上げていきました。途中、何が出てくるかわからない場所を掘ることへの恐怖心で正直作業がはかどらないこともありました。生活用品のみならず、貝や木、大きな石もたくさん出てきました。ある巨大な石が出てきたとき、私たちは「これは絶対無理だー」「諦めよう」と話しているとある先生が「大産大に諦めはない」と言って、一緒になつてどうやったら掘り出せるのかを考えて下さいました。一人、二人と集まって来て、テコの原理を使ったり、タイヤの上に石を乗せたり、石をロープで縛ったり知恵を出し合い、ベストな運び方を考え出し、運びきったときのあの感動はとても素晴らしいものでした。同時に、このように普段したことがない経験をさせていただくことで、考える力や知恵がつくことも改めて感じました。

あつという間に、作業終了時間となり、着替えを済ませ、昼食はのれん街で「味噌ラーメン」をいただきました。せつせと調理するおばさんの顔、笑顔で接客するおじさんの顔を見ると心から応援したくなり、また勇気をいただきました。今回は、先が見えない（終わりが無い）作業が多かったので、ひたむきに、がむしゃらに少しでもきれいにさせていただきたいという気持ちを持ち続け作業に取り組みさせていただきました。第十

回、今回もたくさん素晴らしい方々とご一緒させていただきました、多くのことを学ばせていただいた四日間でした。

最後に、現地との連絡や私たちへの連絡など段取りをしてくださった大谷先生、童心行の準備をして下さった若い先生方、安全運転をして下さった運転手さん本当にありがとうございます。今後ともよろしく願います。

★兵庫県40代 男性★

この度、第十回被災地に学ぶ会に参加させていただきましてありがとうございます。

今回活動させていただいた場所に到着し被災地の風景をみた時、震災直後に報道で見た映像等から考えると瓦礫などの処理が進んでいる様子が伺えましたが、多くの人々が亡くなり被災された事実は変わらず、むしろ仕事や住まい、人間関係など通常の生活を取り戻していくにはこれからさらに長く厳しい時間が必要なのだと痛感しました。そのことは現地ボランティアの方のお話からも伺うことが出来ました。

金華山に渡り活動が始まると、誰彼となく声を掛け合い、その日のゴールに向けてみなさんと協力し、やり方を工夫し、励まし合って作業ができました。高校生、大学生、大学院生の多くの若い

みなさんとも年齢や立場の違いも関係なく協力できたことは良い経験でした。さらに若いみなさんのお話をお聞きし、自分も何かをしなければという思いで行動されていることを知り、その姿勢を頼もしく嬉しく思いました。

被災地に学ぶ会は、若いみなさんが持っている情熱を汲み取り、その気持ちに手を貸してくれる場を提供されています。このことは数年という単位ではなくより長い期間にわたって日本の将来を支えていく基礎になるものだと思います。このような取り組みを震災直後から実行されていることは驚くべきことだと思います。

翻って私は個人として何をすべきなのかを考えさられました。年齢などで一概に線引きできるものではないとは思いますが、私自身は社会人として親として、またこれまで多くの方々にお世話になり育てられた身として、自分が社会に対して、被災地のみなさんに対して微力ながら何か役に立つことをやりたいという気持ちがあります。

今回の経験が自分を成長させる良い機会になることは疑いありませんし、自分もその点では未熟な点を感じたり、力をもらったりと気づくことが本当にたくさんありました。ただ、大切な多くをものを失われた被災地の方々を前にして、自分の探しの経験でとどまることなく、困っている皆さんの役に立てたかどうかは自分自身に問わなけ

ればならないという思いも同時に持ちました。

学ばせていただいている、いろんな方に準備や手配をしていただき力を貸していただいているという謙虚な気持ちを持つことは絶対に必要なことですが、その気持ちに加えて周りのみなさん、困っているみなさんの立場や気持ちを考えて行動することが求められていると思います。若いみなさんを動かす思いを私の立場、経験に置き換えてみて考えた結果です。

新聞には読者の声を集めたページがあります。恥ずかしながら、読者の声のページはあまり熱心に読んだことはありませんでした。被災地に学ぶ会から帰り、何気なく新聞を見ると中学生、高校生、大学生が多くの投稿を寄せているではないですか。これまでまったく見なかったわけではないのに、今はそこに目がいつてしまいます。

被災地、復興地の状況は日々変わってゆき、それにもなつてボランティアやひいては被災地に学ぶ会の役割も変わっていくものと思います。今回の経験をもとに、被災地のみなさんの仕事や住まいなど生活の再建を少しでもお手伝いできるように、微力ながら考えたことを実行していきたいと思います。

最後にこのような機会に誘って頂いたみなさま、被災地に学ぶ会のスムーズな運営のために力を尽くされたみなさま、自分のこともかえりみず

現地ボランティアとして尽力されているみなさまに感謝します。ありがとうございました。

★大阪府40代 男性★

前回に引き続き、この会に参加させていただきました。実施に際してご尽力いただきました皆様、参加されたみなさんに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回は日程も前回より一日長く、ボランティア活動の前後で参加された皆さんとより多く交流させていただけただけなこと、また体験交流会などの場を設けていただけたこともあり、被災地に対してお役に立つということだけでなく、私自身にとって大いに学びとなったことが実感できた四日間となりました。

今回向かいました金華山は、市街地から離れた島でありながら、桟橋の地盤沈下で船での往来もままならず、また9月の台風被害が重なったこともあり、復興の遅れが目立ちました。また震災前に観光業に従事されていた方とお話しさせていただく機会があり、復興の遅れに対する不安を吐露されておられました。かたや市街地では住宅の建築現場、幹線道路沿いには新しい店舗なども見受けられ、一面的に今回の震災を、被災地をとらえるのではなく、被災された方々ひとりひとり

に思いを寄せていくこと必要さを感じました。

土曜日の活動は重機が通れる道づくり、日曜は牡鹿半島に戻つての重機が通つた後の浜での瓦礫の整理。重機が作業し、一見きれいに見える場所も少し土を掘れば様々な生活の品が出てきました。重機を通れるようにするためには人の手が必要、しかし重機が通つたからといってそれで終わりではなく、そこから人の手が必要。二日間の作業に因果なものを感じ、何をもつて復興となるのか、と課題を持ちました。

また、土曜、日曜いずれも大きな石を動かす作業がありました。私一人の手では数メートル運ぶことさえできず、それを一気に動かしてしまつた自然の力の凄さ、脅威を実感するとともに、何人かで力を合わせて作業を進めるのかなんとか動かすことができ、その自然に対峙するためにも、人として謙虚に力を合わせていかなければと感じさせられました。

今回は特に参加された皆さんから想いや教えが受け継がれている様をさまざまな場面で見せていただくことができました。先生に引率されて来られた中学生、高校生の方、先生は参加されなくとも、先生の教えを胸にされた学生のみなさん、ベテランの先生方から学び取ろうと日々精進されておられる若い先生方、親子やご兄弟で参加されている方…。それぞれが参加するまでに学ん

だことを実践しようとして取り組んでおられる姿に頭が下がる思いでした。特に体験交流会にて先生に礼を述べられた高校生、早朝に掃除を進んで実践されておられた若い先生方が強く印象に残っています。私も今回のみなさんの姿から想いや教えを受け継ぎ、それをまた受け渡していく役目を果たしていきたいと思えます。

★★大阪府50代 女性★★

渡邊さんの写真を見て本当にみんな頑張っていたんだと改めて思った。

今回一番印象に残っているのは、(午後はずっとひたすらスコップで土を土嚢に入れる作業だったので全く下に下りなかった。)四時に作業が終わって戻る時に行きとは全く違って土嚢袋敷き詰められ、歩きやすくなっていることだった。「よくぞここまでできてくださった。」と感激しながら金華山黄金山境内に下りていくと、太陽が海に輝き、その輝きが太陽か、海かどちらがどちらなのかわからないほど輝いていた光景に言葉が出なかった。そして明らかに金華山の神様がお喜びになられていることを感じた。

一二五〇年前、奈良時代に作られたこの金華山に千年の時間をワープしてわれわれが来させてもらったのもしかして当時の氏子だったかも

しれない。?????

そして二日目牡鹿半島からバスで移動する時の太陽の太平洋に輝く姿、大川小学校に行く時の北上川に輝く太陽、太陽はいつでも輝いているということ。誰の上にも、どんなところにも。

二日目の朝、「十分前ですよ。」の声に起きて外に出ようとすると、たくさんさんの菩薩様が境内を歩いておられた。「やっぱりみんな違うワァ。」と自分が恥ずかしくなった。ラジオ体操が終わってお参りに行こうと階段を駆け上っていると、沖久先生が階段を掃除しておられた。その姿を見て3人の先生方が掃除を始めた。

船着場に行くまでの下り道は青い海と島、快晴、風光明媚な景色で一瞬「学年親睦旅行で景勝地に来ている?」と思うぐらい景色がよい。風が心地よい。

午前中は埼玉チームと作業をさせていただく。女子中学生の力持ちには参った。

午後、エネオス(ガソリンスタンド)の岡田さんを訪ねる。朝、私たちが船着場についたのをご存知だった。十日前からわかめ漁が始まったらしい。岡田さんも仮設住宅に住んでおられるが、仕事がある人はこの町で住んでいるという。東北電力の鉄筋住宅は一階は被害をこうむっているが2階は全く大丈夫。しかし取り壊す予定だそう。岡田さんからすると「利用できるのに何とかなら

ないものだろうか」とおっしゃっておられた。

「仕事」。支えてくれている人に手を合わさなければならぬ。うらがわで支えてくださる方がおられなければ成り立たない。自分ひとりではできない。

今回、帰ってから、新一年生の四つの教室の油引き、壁全面ペンキ塗り完了。皆さんからすごいエネルギーを頂、一週間本当に元気いっぱい活動できました。ありがとうございます。

★★兵庫県40代 男性★★

金華山での活動は日帰りではできません。地盤沈下で船着場がなくなり、定期船はありません。渡るためには船をチャーターしなくてはならず、波が立てば欠航になります。実際、往路は波があるために大きな漁船を特別に出して下さり、復路は午後から波が出るとのこと、急遽朝一番に戻ることにしました。

現地では2名の神主さんと数人のボランティアが交代で泊り込んで復旧作業をされていますが、まだ千人以上の人手が必要であるとのことでした。今回現地の方々のお話を伺ったことは、どのような形でも現地にきて欲しいとのことでした。東北の人達から親しまれた金華山が復活すれば、多くの方が訪れることになり、近隣地域の

経済的復興にも繋がるのではないかとも思います。

今回東京と大阪合せて86名で貯水槽に溜まった砂をかき出すという作業をさせて頂きました。一日仕事で貯水槽の砂を取り除き、土嚢袋で道を作りました。しかしながら、約30センチ進んだだけで、まだ3メートル残っているとのことです。深くなればなるほど、取り出すことが難しくなり、この場所だけでも約千人の人手が必要となります。

夜は、グループ討議や体験発表で想いを深め、「日本を美しくする会」の掃除に対する姿勢をみんなで見ました。日中、泥にまみれて、汗を流し感じたからこそ、身にしみることもありました。そして、翌朝から自ら進んでトイレ掃除や側溝の掃除など実践する若者を、ベテランの方々が寄り添っておられるシーンに感動しました。まさに、心で感じて動かれているその尊いお姿から学ばせて頂きました。ありがとうございます。